

とり い ど い せき
鳥井戸遺跡

令和3年9月

宇都宮市教育委員会

序

今回の発掘調査は、交通渋滞の緩和や物流の効率化を図ることを目的に計画された瑞穂野バイパスと鬼怒テクノ通りを結ぶ市道5340号線の改良工事に先立ち行われました。

調査の結果、鬼怒川東岸の清原南部地域では調査事例が少ない古代の集落跡が確認されました。出土した遺物の中には、人間にとって必要不可欠な塩を入れて運んだと思われる塩壺が2点あり、当時の人々の生活の一端をうかがい知ることができる資料です。

本書はそれらの成果をまとめたものであり、市民をはじめ多くの皆様が、本市の埋蔵文化財について理解と関心を深める手がかりとしてご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、埋蔵文化財の取扱い協議から発掘調査に多大なるご協力とご理解をいただきました、関係機関並びに関係各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

令和3年9月30日

宇都宮市教育委員会

教育長 小堀茂雄

例 言

- 1 本報告書は、栃木県宇都宮市上麗谷町1912他に所在する鳥井戸遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、宇都宮市道5340号線（みずほの通り）整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査として実施したものである。
- 3 本調査は平成20～27年の間に3次に渡って実施したが、それぞれの調査期間・調査面積等は以下のとおりである。

調査次	調査期間	調査面積
第1次調査	平成20年8月4日～平成21年3月27日	5,750㎡
第2次調査	平成22年5月14日～7月27日	350㎡
第3次調査	平成27年2月25日～3月23日	120㎡

- 4 発掘調査における測量及び写真撮影等は前原義之・君島直人が、また報告書作成に伴う遺構・遺物の整理及び写真撮影等は、永岡亜紀・森千鶴子の協力を得て、田縷麻友子・梁木誠がこれにあつた。
- 5 本書の編集・執筆は、清地良太との協議を踏まえ、梁木と田縷がこれにあつた。
- 6 本遺跡出土の遺物及び図面・写真等の記録類は、宇都宮市教育委員会にて保管している。
- 7 発掘調査の関係者は次のとおりである。

〔指導助言〕

宇都宮市文化財保護審議委員会委員 埴 節夫（平成20年9月30日まで）

〃 竹澤 謙（平成20年10月1日から）

〃 橋本澄朗

〔事務局〕

〈平成20年度〉

教育長：伊藤文雄、教育次長：高井 徹、文化課長：楡原貞亮、文化課長補佐：篠原 豊
文化財保護係長：大塚雅之、文化財保護係：神野安伸、今平利幸、君島直人、須田浩太郎、
前原義之、井上俊邦、黒須 寛、鈴木浩史、笥 芳子

〈平成22年度〉

教育長：伊藤文雄、教育次長：岡本典幸、文化課長：高橋充史、文化課長補佐：阿部紀夫
文化財保護係長：大塚雅之、文化財保護係：江川尚美、神野安伸、今平利幸、君島直人、
前原義之、阿部雅子、近藤 真、柴 正美、降幡敏彦

〈平成26年度〉

教育長：水越久夫、教育次長：楡原貞亮、文化課長：赤石澤亮、文化課長補佐：岡地 宏
文化財保護グループ係長：今平利幸、文化財保護グループ：江川尚美、石川和弘、君島直人、
前原義之、近藤 真、降幡敏彦、竹下 亘、仲沢 隼、高橋 慧

〈令和3年度・報告書作成時〉

教育長：小堀茂雄、教育次長：青木容子、文化課長：山口達雄、文化課主幹：今平利幸
文化財保護グループ係長：前原義之、文化財保護グループ：清地良太、近藤 真、星野治彦、

田中宏迪、小曾戸祥彦、柳川実咲、土田創太、高橋直也、高橋良子(再任)、栗木 誠(会職)、
田績麻友子(会職)

〔発掘調査補助員〕

〈平成20年度〉

入江晴江、大塚一三、大塚啓子、大根田稔子、大根田ノブ、郷間久男、篠崎安子、関口典子、
高橋節子、手塚悦子、堀中国代、山口郁子、山口市え子

〈平成22年度〉

大塚一三、大塚啓子、大根田稔子、大根田ノブ、篠崎安子、関口典子、高橋節子、山口郁子、
山口佳久

〈平成26年度〉

入江晴江、入江通子、菅野 繁

- 8 発掘調査の実施並びに本書の作成にあたっては、栃木県教育委員会の指導を受けるとともに、次の諸機関及び諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。(敬称略、順不同)
栃木県立博物館、(公財)とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター

凡 例

- 1 挿図の縮尺は、原則として竪穴住居跡を1/60とし、遺物は土器を1/3、鉄製品を1/2、石製品を原寸で示した。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の番号と一致する。
- 2 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
- 3 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ローム粒：LR、ロームブロック：LB、鹿沼パミスブロック：KPB、今市パミス：IP、
炭化物：C、炭化物粒：CR、焼土粒：SY、カクラン：K
- 4 遺構においては次の略号を使用した。
竪穴住居跡：SI、土坑：SK、溝：SD、不明：SX

目次

・序	
・例言、凡例	
I はじめに	
1 調査の経過	1
2 遺跡の環境	2
II 遺構と遺物	
1 竪穴住居跡	6
2 その他	11
III おわりに	
1 出土土器群の様相	39
2 集落の構成と変遷	39
・写真図版	
・報告書抄録	

挿図目次

第1図 遺跡位置図	1	第20図 SD01	23
第2図 計画路線図と遺跡の位置	2	第21図 SX01	23
第3図 周辺の遺跡分布図	4	第22図 SI03出土遺物	24
第4図 遺構配置図	12	第23図 SI04出土遺物(1)	24
第5図 SI01	13	第24図 SI04出土遺物(2)	25
第6図 SI02	13	第25図 SI05出土遺物(1)	25
第7図 SI03	14	第26図 SI05出土遺物(2)	26
第8図 SI04	14	第27図 SI06出土遺物	26
第9図 SI05	15	第28図 SI07出土遺物	27
第10図 SI06	15	第29図 SI08出土遺物	28
第11図 SI07	16	第30図 SI10出土遺物	29
第12図 SI08	17	第31図 SI11出土遺物	28
第13図 SI09	18	第32図 SI13出土遺物	30
第14図 SI10	18	第33図 SI14出土遺物	30
第15図 SI11	19	第34図 SI15出土遺物(1)	31
第16図 SI12	19	第35図 SI15出土遺物(2)	32
第17図 SI13	20	第36図 SI15出土遺物(3)	33
第18図 SI14	21	第37図 SI15出土遺物(4)	34
第19図 SI15	22		

表目次

第1表	周辺の遺跡一覧	5	第7表	SI08出土遺物観察表	36
第2表	SI03出土遺物観察表	34	第8表	SI10出土遺物観察表	36
第3表	SI04出土遺物観察表	34	第9表	SI11出土遺物観察表	36
第4表	SI05出土遺物観察表	34	第10表	SI13出土遺物観察表	37
第5表	SI06出土遺物観察表	35	第11表	SI14出土遺物観察表	37
第6表	SI07出土遺物観察表	35	第12表	SI15出土遺物観察表	37

図版目次

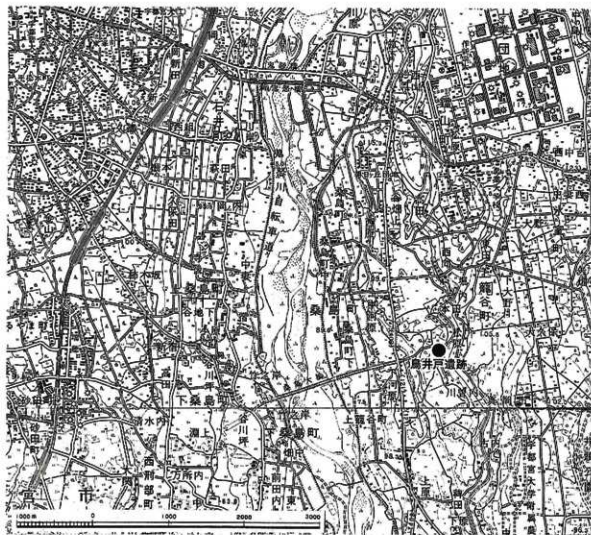
P L 1	調査地区表土除去状況、遺構確認状況	P L 8	SI12土層断面、SI12完掘状況、SI13調査風景、SI13土層断面、SI13土師器甕出土状況、SI13完掘状況、SI13調査区遠景、SI14土層断面
P L 2	調査区全景、調査区全景	P L 9	SI14完掘状況、SI15遺物出土状況、SI15完掘状況、SI15調査区遠景、SD01土層断面、SD01完掘状況、SD01完掘状況、SX01完掘状況
P L 3	SI01土層断面、SI01完掘状況、SI01カマド、SI02土層断面、SI02完掘状況、SI03土層断面、SI03完掘状況、SI03カマド	P L 10	SI03出土遺物、SI04出土遺物、SI05出土遺物
P L 4	SI04土層断面、SI04遺物出土状況、SI04北東コーナー部遺物出土状況、SI04完掘状況、SI04カマド、SI05土層断面、SI05遺物出土状況、SI05完掘状況	P L 11	SI06出土遺物、SI07出土遺物
P L 5	SI05カマド、SI06土層断面、SI06遺物出土状況、SI06土師器甕出土状況、SI06完掘状況、SI06カマド、SI07土層断面、SI07遺物出土状況	P L 12	SI08出土遺物、SI10出土遺物
P L 6	SI07完掘状況、SI07カマド、SI08土層断面、SI08鉄器出土状況、SI08完掘状況、SI08カマド、SI09土層断面、SI09完掘状況	P L 13	SI11出土遺物、SI13出土遺物、SI14出土遺物、SI15出土遺物(1)
P L 7	SI10土層断面、SI10遺物出土状況、SI10須恵器甕出土状況、SI10完掘状況、SI10カマド、SI11土層断面、SI11完掘状況、SI11カマド	P L 14	SI15出土遺物(2)
		P L 15	SI15出土遺物(3)

I はじめに

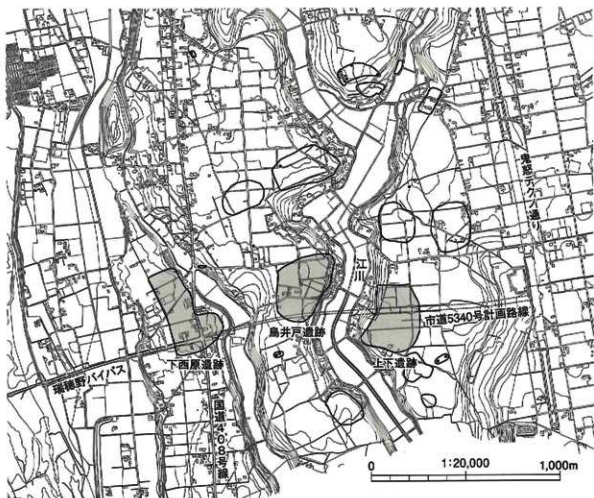
1 調査の経過

鳥井戸遺跡は宇都宮市街地の東南東約10km、宇都宮市上籠谷町1912他に所在する埋蔵文化財包蔵地（栃木県登録番号3377）である。今回の調査は、本遺跡内に計画された宇都宮市道5340号線（みずほの通り）の改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査である。

市道5340号線改良工事は、宇都宮環状道路から東進する瑞穂野バイパス（国道121号線）と鬼怒テクノ通り（国道408バイパス）を結び、市街地の交通渋滞緩和や物流の効率化等を図ろうとするものである。この計画路線上には西から下西原遺跡（栃木県登録番号3376）・鳥井戸遺跡（栃木県登録番号3377）・下上遺跡（栃木県登録番号3378）の3遺跡の所在が確認され、工事により影響を受ける部分については順次記録保存のための発掘調査を実施することとなった。なお、各遺跡の発掘調査は、区間の工事工程に先行し、下西原遺跡が平成19年度、鳥井戸遺跡が平成20年度、下上遺跡が平成22年度にそれぞれ着手している。



第1図 遺跡位置図



第2図 計画路線図と遺跡の位置

鳥井戸遺跡の発掘調査は平成20年度に着手し、平成27年度まで3次に渡って実施しているが、年次ごとの概要は以下の通りである。

第1次調査 道路本体部に関わる調査区である。対象面積は約5,750㎡で、東西約180m、南北約30mの範囲である。調査期間は平成20年8月4日～平成21年3月27日の約8ヶ月間。遺構は調査区東寄りの江川沿いに集中する形で、竪穴住居跡（古墳時代後期～平安時代初期）11軒・円形周溝遺構1基・溝1条等が確認されている。

第2次調査 北からの進入道路に関わる調査区で、対象面積は約350㎡。南北約80m、幅数mの道路敷範囲である。調査期間は平成22年5月14日～7月27日の約1.5ヶ月間。遺構は調査区南半部から、道路本体部の竪穴住居跡群に連なるものとみられる竪穴住居跡2軒が確認されている。

第3次調査 南からの進入道路に関わる調査区で、対象面積は約120㎡。南北約30m、幅数mの道路敷範囲である。調査期間は平成27年2月25日～3月23日の約1ヶ月間。確認された遺構は竪穴住居跡2軒で、道路本体部の竪穴住居跡群に連なるものである。

2 遺跡の環境

宇都宮市は関東平野の北端に位置し、北西部には日光・足尾の山地帯から延びる丘陵地が連なり、中南部から東部にかけては関東ローム層の台地が発達する。これらは南流する河川によって区切られ、西

から鹿沼台地・宝木台地・岡本台地・宝積寺台地などと呼ばれている。本遺跡が立地するのはこの内最も東に位置する宝積寺台地上で、鬼怒川の左岸に形成されたものである。さらにこの台地内部は小河川や開析谷による樹枝状の地形の発達が特徴的であるが、本遺跡も鬼怒川の支流である江川によって形成された細長い台地の東縁辺寄りに立地している。ちなみに本遺跡周辺は標高105m前後で、江川低地面とは10数mの比高差がみられる。

次に周辺の遺跡の分布状況であるが、最も多いのは本遺跡近辺の江川沿岸で、右岸・左岸ともに密集度が高い。これに続くのが東の刈沼川沿岸であるが、密集度はそれほど高くはないようである。なお江川と刈沼川の間には台地が幅広く連なるが、中央部にはほとんど遺跡が確認されていないのが特徴的である。以下時代毎に遺跡の状況を概観してみたい。

旧石器時代 確認されているのは僅かに宇都宮大学農学部付属農場地内遺跡（38）のみで、ナイフ形石器1点が出土している。

縄文時代 前代に比べると遺跡数は大きく増加し、特に江川の沿岸部には分布が多くみられる。本遺跡から南原用水・江川を挟んで東方約1kmに位置する下上遺跡（3）では、平成22年度の発掘調査により、後期の集落跡が発見され、竪穴住居跡40軒、敷石住居跡及び土坑多数が確認されている。

弥生時代 遺跡数は3カ所と非常に少なく、時期や内容なども不明な点が多いが、井頭遺跡（39）では昭和48年の発掘調査で後期の集落跡が発見され、竪穴住居跡4軒等が確認されている。

古墳時代 奈良・平安時代に次いで遺跡の多い時代である。またその分布をみると、縄文時代が江川沿岸中心であったのに対し、東の刈沼川沿岸にも拡大している様子が確認される。この内古墳そのものがみられるものは大杉神社古墳（8）はじめ7遺跡あるが、いずれも小規模な円墳又は円墳群である。また、本遺跡の西方約500mに位置する下西原遺跡（2）では平成19・29年度の発掘調査により、竪穴住居跡を中心とした集落跡が確認されている。

奈良・平安時代 各時代を通じて遺跡数が最も多い。分布は古墳時代とほぼ同様で、多くが継続して発展的に営まれていた様子が窺われる。前述の井頭遺跡（39）では、奈良時代から平安時代前半にかけての集落跡が発見され、多数の竪穴住居跡とともに掘立柱建物跡もまもって確認されている。

中・近世 中世の遺跡は残念ながら確認することはできないが、近世とみられ供養塚・高塚等が一定数散見される。

（参考文献）

栃木県教育委員会 1975 『井頭』

宇都宮市教育委員会 1983 『宇都宮の遺跡—宇都宮市埋蔵文化財等遺跡詳細分布確認調査報告書—』

宇都宮市教育委員会 2017 『宇都宮市遺跡分布地図』



第3図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺の遺跡一覧表

No	遺跡名	所在地(代表地番)	種別	時代	内容その他
1	鳥井戸遺跡	宇都宮市上籠谷町4542-1	集落跡	古墳・奈良平安	2008・2010・2015年発掘
2	下西原遺跡	宇都宮市上籠谷町3183	集落跡	縄文・古墳・奈良平安	2007・2017年発掘
3	下上遺跡	宇都宮市上籠谷町4598-88	集落跡	縄文・奈良平安	2009・2010年発掘
4	草倉坂下遺跡	宇都宮市籠山町673	集落跡	縄文	
5	根木内遺跡	宇都宮市籠山町617	集落跡	奈良平安	1996年確認調査
6	籠山東原遺跡	宇都宮市籠山町146-3	集落跡	縄文・奈良平安	
7	臼内遺跡	宇都宮市水室町1026-2	集落跡	縄文・奈良平安	
8	大杉神社古墳	宇都宮市水室町1671-3	古墳	古墳	円墳1基
9	蒙内神道跡	宇都宮市水室町1667-4	集落跡	弥生・奈良平安	
10	西原庚申塚群	宇都宮市上籠谷町2035	塚	近世	塚2基
11	夕顔内遺跡	宇都宮市上籠谷町1169-5	集落跡	縄文・奈良平安	
12	中橋高塚群	宇都宮市上籠谷町1100	塚	近世	
13	東田南遺跡	宇都宮市上籠谷町1050-1	集落跡	奈良平安	
14	東田遺跡	宇都宮市上籠谷町1039	集落跡	縄文	
15	シドミ久保遺跡	宇都宮市上籠谷町723-1	集落跡	縄文・古墳	
16	千波稲荷神社古墳	宇都宮市水室町2923-5	古墳	古墳	円墳1基
17	おひじり塚古墳	宇都宮市水室町1599-10	古墳	古墳	円墳1基
18	小松原高塚	宇都宮市水室町1596-1	塚	近世	塚13基
19	小松原遺跡	宇都宮市水室町1587-7	集落跡	奈良平安	
20	中台遺跡	宇都宮市水室町1137	集落跡	古墳	
21	矢畑遺跡	宇都宮市水室町323-3	集落跡	古墳・奈良平安	
22	上籠谷笹塚古墳	宇都宮市上籠谷町4408	古墳	古墳	円墳1基
23	西向遺跡	宇都宮市上籠谷町4445	集落跡	縄文・古墳・奈良平安	
24	番匠塚遺跡	宇都宮市上籠谷町4461-1	集落跡	古墳・奈良平安	
25	坂下古墳	宇都宮市上籠谷町705-1	古墳	古墳	円墳1基
26	小泉庚申塚群	宇都宮市上籠谷町1794	塚	近世	
27	上籠谷和尚塚	宇都宮市上籠谷町4480	塚	近世	
28	鷺内ノ上遺跡	宇都宮市上籠谷町4638	集落跡	縄文・奈良平安	
29	上籠谷坂下遺跡	宇都宮市上籠谷町699-1	集落跡	古墳・奈良平安	
30	下原古墳群	宇都宮市上籠谷町1832	古墳群	古墳	円墳2基
31	下山上遺跡	宇都宮市上籠谷町1923-4	集落跡	縄文・奈良平安	
32	対ノ内遺跡	宇都宮市上籠谷町68	集落跡	奈良平安	
33	無宗古墳群	宇都宮市上籠谷町104	古墳群	古墳	円墳2基
34	川曾内遺跡	宇都宮市上籠谷町62	集落跡	弥生	
35	星の宮遺跡	宇都宮市水室町69-51	集落跡	古墳	
36	北原遺跡	真岡市下籠谷町	集落跡	古墳・奈良平安	
37	塚原遺跡	真岡市下籠谷町	集落跡	縄文	
38	宇大農場地内遺跡	真岡市下籠谷町	集落跡	旧石・縄文・奈良平安	
39	井頭遺跡	真岡市下籠谷町	集落跡	弥生・古墳・奈良平安	1974年発掘調査

II 遺構と遺物

今回鳥井戸遺跡においては、第1～3次合わせて6,220㎡(東西約180m・南北約140m)が発掘調査の対象となった。地形的には西から東への緩やかな傾斜地(標高差約2m)で、調査前の土地利用は大部分が畑地及び果樹園等であった。発掘調査の結果、竪穴住居跡15軒・円形周溝遺構1基・溝1条が確認されたが、これらは全体に調査区の東寄り、すなわち江川右岸の台地縁辺寄りに分布しており、その範囲は東西約100m・南北約90mであった。

1 竪穴住居跡

SI01 (第5図)

概要:北壁にカマドを有する小規模な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-2°-Eである。ゴボウトレンチャーによる掘削で、全体に破損が著しい。 **位置:**今回確認された竪穴住居跡群中、最も西に位置する。 **規模:**南北2.92m×東西3.61mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.25m前後である。 **覆土:**自然堆積で、全体にローム粒が多く含まれている。 **床面:**ほぼ平坦であるが、あまり踏み固められた様子はみられない。 **柱穴・壁溝・貯蔵穴等:**確認されていない。 **カマド:**北壁のほぼ中央に位置するが、煙道部の壁への掘り込みはほとんど確認されない。袖部は粘土を主体に造られたもので、幅90cm・奥行き40cmほどの大きさである。燃焼部は浅い窪みとなるが、使用した様子はあまりみられない。 **出土遺物:**なし。

SI02 (第6図)

概要:北側が大きく攪乱を受けた小型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-14°-Eである。 **位置:**竪穴住居跡群のほぼ中程に位置し、SI09と近接する。 **規模:**南北推定3.30m×東西4.03mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.25m前後である。 **覆土:**攪乱が多く不明瞭であるが、自然堆積とみられる。 **床面:**ほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められている。 **柱穴・貯蔵穴・カマド等:**確認されていない。 **出土遺物:**なし。

SI03 (第7図、第22図、第2表)

概要:北壁にカマドを有する長方形の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-17°-Eである。 **位置:**竪穴住居跡群のほぼ中程。 **規模:**南北3.95m×東西5.34mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.30m前後である。 **覆土:**自然堆積で、全体にローム粒が多く含まれている。 **床面:**ほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められている。 **壁溝:**幅15～20cm・深さ7～10cmの壁溝が、北西部を除きほぼ全周している。 **柱穴・貯蔵穴等:**確認されていない。 **カマド:**北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を45cm程掘り込んで造られている。袖部は西側が失われているが、灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き70cm・幅120cm(推定)程の大きさである。 **出土遺物:**出土遺物は少なく、図示得たのは須恵器高台つき環1点と土師器甕1点だけである。2の土師器甕はカマド付近からの出土である。

SI04 (第8図、第23・24図、第3表)

概要:北壁にカマドを有する小規模な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-18°-Eである。 **位置:**竪穴住居跡群のほぼ中心部。 **規模:**南北3.30m×東西3.67mの方形で、確認面から床面までの深

きは0.30m前後である。覆土：自然堆積で、下層には炭化材・焼土等が含まれている。床面：ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。入口ピット：南壁下で確認されたP1・P2（直径25cm前後・深さ25～30cm）で、距離は中心間でほぼ50cm。2本セットで使用された可能性も高いものと思われる。壁溝：南東コーナー部は擾乱されているが、幅15～20cm・深さ6～10cmの壁溝が全周していたものとみられる。柱穴・貯蔵穴等：確認されていない。カマド：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を45cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体にして造られたもので、奥行き30cm・幅110cm程の大きさである。出土遺物：図示し得たのは土師器甕4点、須恵器杯3点である。2・3の須恵器杯は床面直上、その他もほとんどが覆土下層からの出土である。1須恵器杯の体部外面に墨書「□井」がみられる。

S105（第9図、第25・26図、第4表）

概要：北壁にカマドを有する長方形の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-10°-Eである。位置：竪穴住居跡群の東寄り、台地縁辺部に近い。規模：南北3.62m×東西5.01mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.35m前後である。覆土：自然堆積で、下層には炭化材・焼土等が少量含まれている。床面：ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。柱穴：床面からは6つのピット（P1～P6）が確認されているが、いずれも浅く（7～17cm）柱穴としては心もとないものである。入口ピット：南壁下ほぼ中央で確認されたP7で、深さは33cmとしっかりしている。壁溝：幅20～35cm・深さ6～9cmの壁溝が全周している。貯蔵穴：確認されていない。カマド：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を105cm程大きく掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行きが20cm程と短く、幅は100cm弱である。燃焼部は20cmほど掘り窪められたもので、底面からは焼土・炭化物等が多く確認されている。出土遺物：出土遺物は比較的多く、図示し得たのは須恵器杯9点、土師器甕3点及び土師器杯底部を転用した紡錘車1点である。ほとんどは覆土中層から下層にかけての出土である。

S106（第10図、第27図、第5表）

概要：北壁にカマドを有する小型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-5°-Eである。位置：竪穴住居跡群中最も東で、台地縁辺まで数十mの位置である。規模：南北3.65m×東西3.77mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.45m前後である。覆土：自然堆積で、全体にローム粒が多量に含まれている。床面：ほぼ平坦で、良く踏み固められているが、中央南壁寄りに南北1.3m・東西1m・深さ25cm程の不整形な掘り込みがみられる。またカマド前面から北東コーナーにかけても、南北約1m・東西約1.5m・深さ20cm程の不整形な掘り込みが確認される。柱穴：床面から確認されたのは中央南寄り不整形掘り込み中の1本（P1）のみで、直径38cm・深さ48cmである。壁溝：幅10～20cm・深さ5～10cmの壁溝で、カマド及び北東コーナーを除き全周している。貯蔵穴：位置的には北東コーナーの掘り込みが考えられるが、不整形でやや浅い。カマド：北壁東寄りに位置し、煙道は壁を45cm程掘り込んで造られている。袖部があつたとみられる部分には2つの小ピット（直径20～30cm・深さ15～20cm）が約60cm間隔で確認されている。また燃焼部は20cmほど掘り窪められたもので、焼土・炭化物等が多量に確認されている。出土遺物：図示し得たのは土師器杯1点、土師器甕5点、須恵器甕1点、土師器杯の底部を転用した紡錘車及び鉄鏝2点である。3・5の土師器甕及び8紡錘車は床面直上、6土師器甕と7須恵器甕はカマド内からの出土である。

S107 (第11図、第28図、第6表)

概要:北壁にカマドを有する大型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-24°-Eである。位置:竪穴住居跡群中のほぼ中央部で、北西コーナーは調査区外である。規模:南北5.94m×東西5.76mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.60m前後としっかりしている。覆土:自然堆積で、全体にローム粒が多量に含まれている。床面:ほぼ平坦で、主柱穴内の中央部からカマド前面にかけては良く踏み固められている。柱穴:主柱穴はP1~P4(直径35~45cm・深さ43~56cm)の4本で、柱間距離は南北2.65m・東西2.95mと東西がやや長い配置である。ほぼ主軸線上で確認されたP5・P6(直径40cm前後・深さ25cm前後)はやや浅めの柱穴で、東西主柱のほぼ中間に配されたものである。壁溝・貯蔵穴等:確認されていない。カマド:北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を30cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き約1m、幅約2mの大きなものである。燃烧部は15cmほど掘り窪められたもので、焼土・炭化物等が多量に確認されている。出土遺物:図示し得たのは土師器壺2点、須恵器壺5点、土師器甕1点、須恵器甕2点及び土師器の塩壺1点である。いずれも覆土中からの出土であり、土師器壺2の体部外面には墨書「他田口」がみられる。

S108 (第12図、第29図、第7表)

概要:北壁にカマドを有する大型の竪穴住居跡で、今回確認された中では最大規模である。主軸の方位はN-1°-Eとほぼ真北を取っている。位置:竪穴住居跡群中の西端部に位置し、さらに西側の台地上は無遺構地域となっている。規模:南北5.64m×東西6.42mのやや東西に長い長方形で、確認面から床面までの深さは0.40m前後である。覆土:ゴボウ栽培により激しく攪乱を受けているが、自然堆積である。全体にローム粒が多量に含まれている。床面:ほぼ平坦で、主柱穴内の中央部からカマド前面にかけては良く踏み固められている。柱穴:主柱穴はP1~P4(直径35~50cm・深さ52~73cm)の4本で、柱間距離は南北3.29m・東西3.48mと東西がやや長い配置である。P5~P7(直径30~42cm・深さ10~20cm)は位置的に付け替えも考えられたが、柱穴としては深さが足りないものである。壁溝:幅15~20cm・深さ5cm前後の壁溝が、西壁中央部のみに確認されている。入口ピット:南壁中央沿いからは3個の小ピット(P8~P10)が確認されているが、このうちP8は径32cm・深さ41cmのしっかりしたもので、位置的にも入口ピットに相応しいものと言える。貯蔵穴:北西コーナー付近から南北35cm×東西125cmで深さ51cmの溝状の穴が確認されているが、深さや位置から貯蔵穴と考えられる。カマド:北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を50cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き約0.6m、幅約1.8mである。燃烧部は10cmほど掘り窪められたもので、焼土・炭化物等が多量に確認されている。なお燃烧部の前面には2個の小ピット(直径20cm前後・深さ10cm前後)が60cm程の間隔を置いて確認されている。出土遺物:出土遺物はやや少なく、図示し得たのは須恵器壺1点、土師器甕2点、土師器壺1点及び刀子1点である。2土師器甕・4土師器壺及び5の刀子は床面直上の出土である。

S109 (第13図)

概要:北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-7°-Eである。旧道に伴うとみられるSD01により南西コーナー部が切られている。位置:竪穴住居跡群のほぼ中央部に位置し、S102と近接する。規模:南北3.75m×東西4.89mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.20m前後と浅い。覆土:自然堆積で、埋土は全体にローム粒を多く含むやや柔らかい。床面:ほぼ

平坦で、カマドの前面は良く踏み固められている。柱穴：床面内に主柱穴と思われるものは確認されない。北壁沿いかマド西側のP1(直径25cm・深さ7cm)も柱穴としては浅い。壁溝：幅15～20cm・深さ4～6cmの壁溝が、南東コーナーを除きほぼ全周している。貯蔵穴：南東コーナー付近で確認されたP2・P3はいずれも深さ10cm前後の浅い穴であるが、P3(南北72cm×東西68cm)は形状的・位置的に貯蔵穴の可能性もあると思われる。カマド：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を55cm程掘り込んで造られている。袖部は西側が失われているが、灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き約0.6m、推定幅約1.4mである。燃烧部は15cmほど掘り窪められたもので、底面は赤く焼き込まれている。出土遺物：なし。

S110(第14図、第30図、第8表)

概要：北壁にカマドを有する小型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-14°-Eである。炭化材等の出土状況から焼失家屋とみられる。位置：竪穴住居跡群のやや西寄りに位置し、S111と近接する。規模：南北3.37m×東西3.48mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.40～0.50m前後である。覆土：自然堆積で、下層から床面にかけては炭化材・焼土等が多量に確認されている。床面：南東部が全体に10cm前後窪んでいるが他はほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。柱穴：床面からはP1～P4(直径40～55cm・深さ10～20cm)が確認されているが、いずれも主柱穴としては浅い。壁溝：幅20cm前後・深さ5cm前後の壁溝が、西側半分だけ巡っている。入口ピット：南壁沿い中央のP4(直径45cm・深さ21cm)は、位置的に入口ピットと思われる。貯蔵穴：東壁沿いほぼ中央に位置し、南北約70cm×東西約60cm・深さ43cm不整形なつくりであるが、内部から須恵器の壺が出土したことやカマドとの位置関係から貯蔵穴と判断される。カマド：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を約60cm掘り込んで造られている。袖部は褐色粘土を主体として造られたものと思われるが、残りはあまりよくない。燃烧部は15cmほど掘り窪められたもので、焼土・炭化物等が多量に確認されている。出土遺物：図示し得たのは須恵器環1点、同高台付環1点、土師器壺9点、須恵器器台1点である。4・6の土師器壺は床面直上、5土師器壺と12須恵器器台は貯蔵穴内からの出土である。なお12の須恵器器台は貯蔵穴底面に成立の状態で出土したものであるが、大甕の口縁部を焼成前に転用したものと思われる。

S111(第15図、第31図、第9表)

概要：東壁にカマドを有する中型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-86°-Eである。位置：竪穴住居跡群のやや西寄りに位置し、S110と近接する。規模：南北3.62m×東西4.35mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.30m前後である。覆土：自然堆積で、埋土は全体にローム粒が多くやや柔らかい。床面：ゴボウ栽培により攪乱は受けているもののほぼ平坦で、中央部からカマド周辺は良く踏み固められている。柱穴：床面から主柱穴と思われるものは確認されていない。壁溝：幅20cm前後・深さ3～6cmの壁溝が、カマド南側を除きほぼ全周している。貯蔵穴・入口ピット等：確認されていない。カマド：東壁のやや南寄りに位置し、煙道は壁を約30cm掘り込んで造られている。本体は褐色粘土を主体として造られたものと思われるが、残りはあまりよくない。北壁から40cm程の位置で2個の凝灰岩切石が約60cm間隔で確認されている。袖部の芯として使われたものと思われる。燃烧部は15cmほど掘り窪められたもので、焼土・炭化物等が多量に確認されている。出土遺物：出土遺物は少なく、図示し得たものは須恵器環1点、同高台付環1点、同短頸壺1点、同壺1点である。1須恵器環と4の壺は床面直上、2の須恵器高台付環はカマド内からの出土である。

S112 (第16図)

概要: 北半部が調査区外となる中型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-9°-Wである。 **位置:** 竪穴住居跡群の北西部に位置する。 **規模:** 南北4.5m以上×東西5.46mの方形で、確認面から床面までの深さは0.30m前後である。なお現表土から確認面までの深さは0.50m前後であった。 **覆土:** 埋土には攪乱が多く見られるが、自然堆積である。 **床面:** ほぼ平坦で良く踏み固められている。なお、中央部に入った斜めの細い溝は後世の攪乱である。 **柱穴:** 主柱穴はP1~P3 (直径30~37cm・深さ30~39cm) の3本で、調査区外に北西のもう1本が残されているものとみられる。柱間距離は南北2.95m・東西3.05mとほぼ正方形の配置である。 **壁溝:** 幅15~25cm・深さ5~10cmの壁溝が、ほぼ全周している。 **入口ピット:** 南壁沿い中央部のP4 (直径40cm・深さ25cm) は、位置的に入口ピットと思われる。 **カマド:** 調査区外の北壁に残されているものと思われる。 **出土遺物:** なし。

S113 (第17図、第32図、第10表)

概要: ほぼ西半分が調査区外となる大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-4°-Wである。 **位置:** 確認された竪穴住居跡群中最も北に位置する。 **規模:** 南北6.30m×東西4.40m以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.25m前後である。 **覆土:** 埋土には攪乱が多く見られるが、自然堆積である。 **床面:** 後世の溝で切られているが、ほぼ平坦で良く踏み固められている。 **柱穴:** 北東及び南東コーナー付近からはP1~P4の4本が確認されているが、主柱穴とみられるのはP3 (直径37cm・深さ46cm) のみである。対応する北東の主柱穴は後世の溝で失われた可能性が高い。 **壁溝:** 幅15~25cm・深さ3~5cmの壁溝が、ほぼ全周している。 **入口ピット:** 南壁沿いほぼ中央部のP5 (直径35cm・深さ28cm) が入口ピットと思われる。 **カマド:** 北壁の調査区外に残されているものと思われる。 **出土遺物:** 出土遺物は非常に少なく、図示し得たのは土師器壺1点と同瓶の把手とみられるもの1点の2点だけである。1の土師器壺は北壁近くの床面に正位の状態で確認されたもので、すぐ近くには粘土塊も出土している。

S114 (第18図、第33図、第11表)

概要: 南西半分が調査区外となる中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はN-21°-Eである。 **位置:** 竪穴住居跡群中の南寄りに位置する。 **規模:** 南北推定3.90m×東西推定4.80mの隅丸長方形で、確認面から床面までの深さは0.50m前後である。 **覆土:** 自然堆積で、下層には焼土や炭化物が含まれる。 **床面:** 部分的な確認であるが、ほぼ平坦で良く踏み固められている。 **柱穴:** P1~P3 (直径35~60cm・深さ12~18cm) の3本が確認されているが、いずれも浅めで、主柱穴とは考えられない。 **貯蔵穴:** 北西コーナーに直径約1mの円形土坑が確認されているが、深さは17cmとやや浅い。 **カマド:** 調査区外の北壁に残されている可能性が考えられる。 **出土遺物:** 図示し得たのは、土師器杯2点、須恵器杯1点、同高台付杯1点、同鉢1点及び石鏝1点である。ほとんどが覆土下層からの出土である。

S115 (第19図、第34~37図、第12表)

概要: 北壁にカマドを有する大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-3°-Eである。南西部の半分以上が調査区外である。 **位置:** 確認された竪穴住居跡群中最も南に位置する。 **規模:** 南北5.65m×東西3.15m以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.55m前後である。 **覆土:** 自然堆積で、下層には焼土・炭化物が多く含まれている。 **床面:** ほぼ平坦で良く踏み固められている。 **柱穴:** 北東コーナー付近で確認されたP1は直径60cm・深さ72cmのしっかりした穴で、主柱穴と考えられる。P2はや

や浅く補助的な穴と思われる。壁溝：幅15～25cm・深さ5cm前後の壁溝が、カマド部分を除きほぼ全周しているとみられる。カマド：北壁に位置し、煙道は壁を50～60cm程掘り込んで造られている。袖部は褐色粘土を主体として造られたものと思われるが、残りはあまりよくない。燃焼部は10cm程掘り窪められたもので、焼土・炭化物等が多く確認されている。出土遺物：半分以上が未発掘であるにも関わらず、出土遺物は今回確認された竪穴住居跡の中で最も多い。図示し得たものは土師器環14点、同鉢2点、同埴2点、同小型甕4点、同甕12点、同甕2点及び土師製の塩壺1点の計37点にのぼる。遺物が集中していたのは北東コーナー付近とカマド内である。北東コーナー付近では床面直上から覆土下層にかけて大小様々な土師器環、同埴、同小型甕などがほぼ一括で出土している。また、カマド内からは大量の土師器甕と同鉢・甕などが出土しているが、土師器甕はほとんどが長胴型のものであり、カマドの構築材としても使用されていたものとみられる。

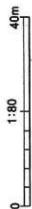
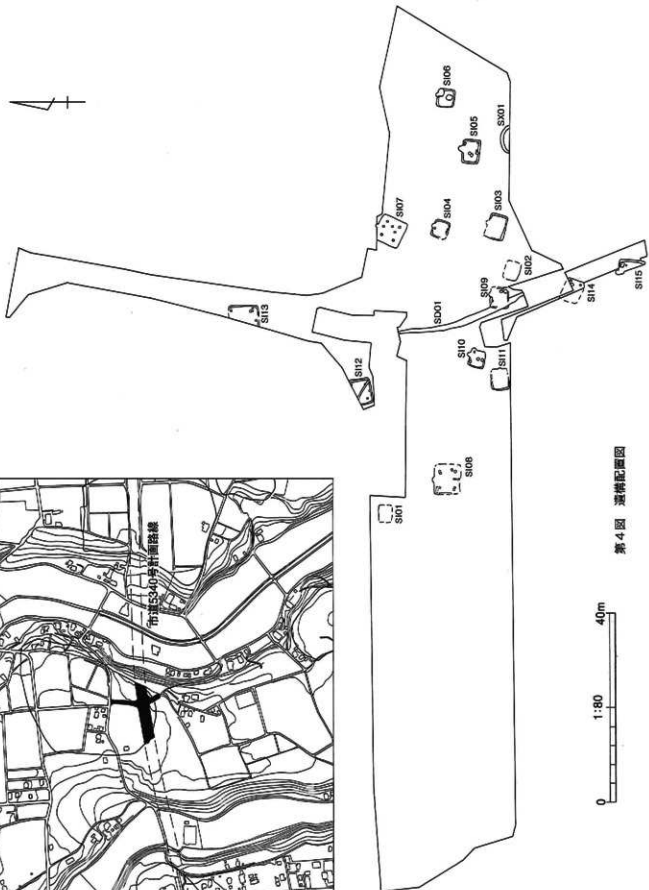
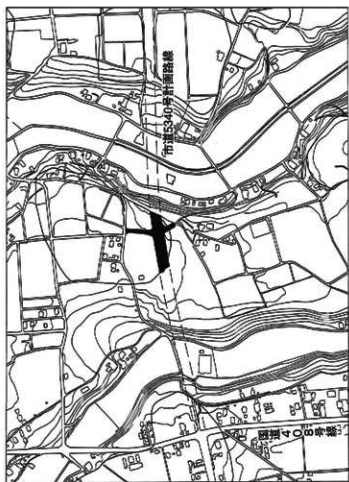
2 その他

溝・SD01 (第20図)

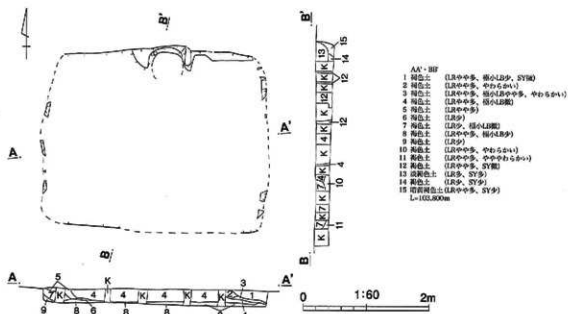
竪穴住居跡群の中央部をほぼ南北に走る溝で、総延長は約28mである。確認面での規模は幅0.5～1.5m・深さ0.3～0.6mで、南部でS109を切っている。埋土は自然堆積で、全体に柔らかい。ほぼ現道に沿って確認されていることから、側溝もしくは地境溝等であったものと思われる。なお出土遺物は確認されていない。

円形周溝遺構・SX01 (第21図)

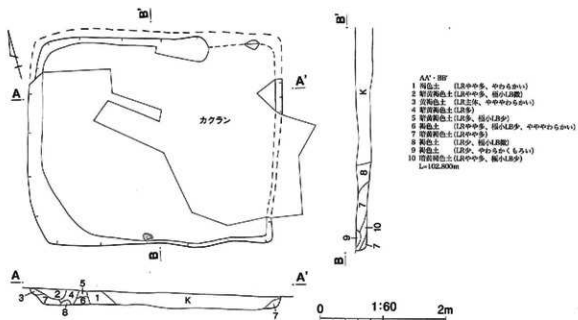
竪穴住居跡群の東側、台地縁辺寄りに位置する。南側半分以上は調査区外であるが、溝が円形に巡る円形周溝遺構とみられる。調査区南限部での径は5.88m (溝外側) であるが、実際の直径はもう少し大きくなるものと考えられる。溝は幅40～60cm・深さ30～35cmの断面箱型で、埋土は自然堆積である。溝の内側ではP1～P3 (直径25～32cm・深さ16～24cm) の3つの小穴がほぼ等間隔 (2.0～2.1m) で確認されている。やや浅めであるが、柱穴が巡らされていたものとみられる。なお出土遺物は確認されていない。



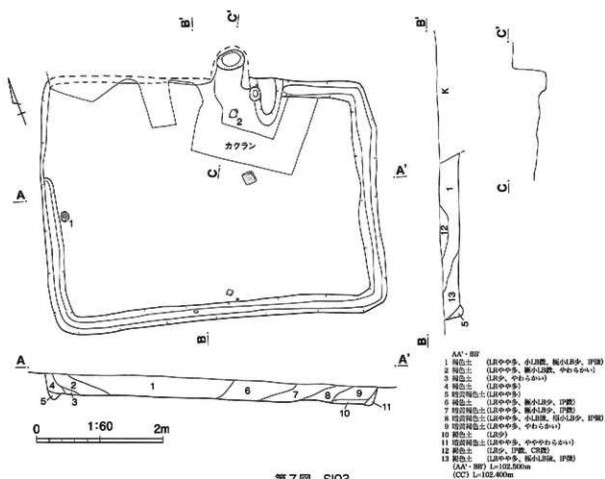
第4図 遺構配置図



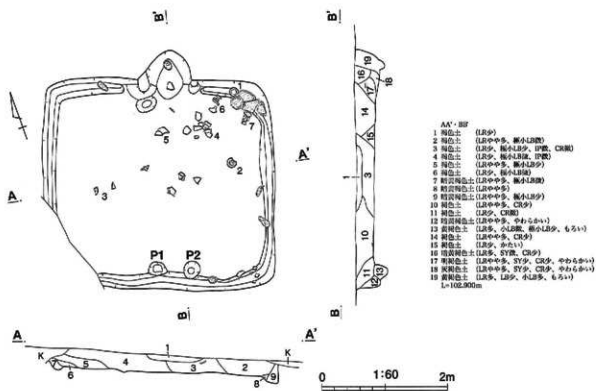
第5図 SI01



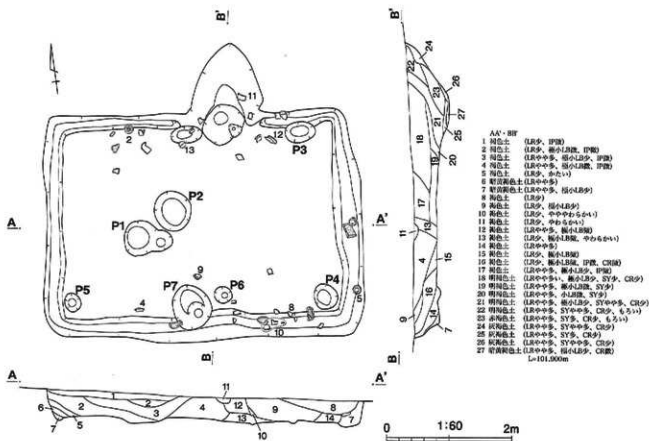
第6図 SI02



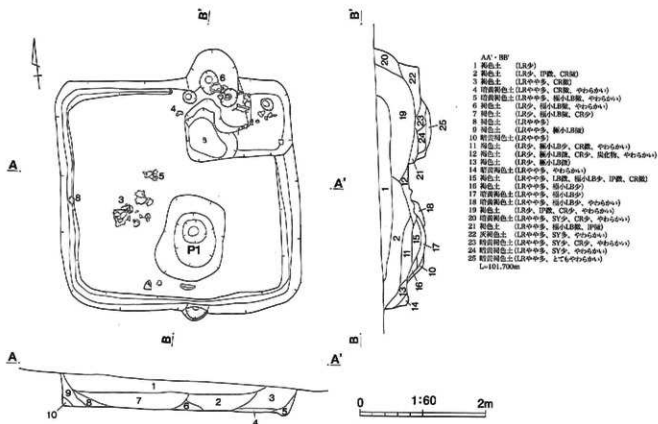
第7図 SI03



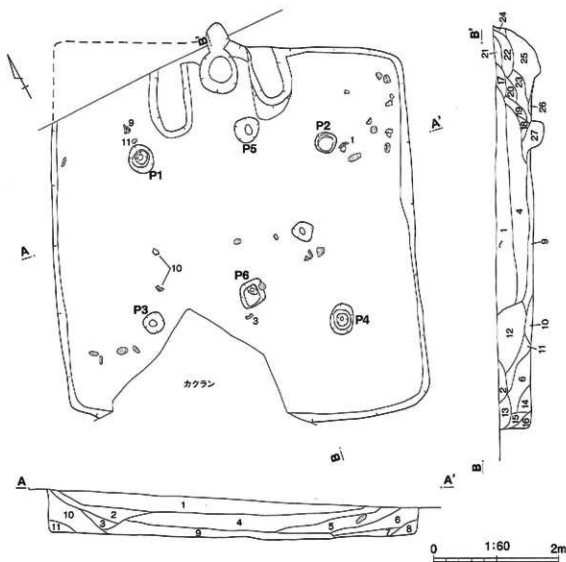
第8図 SI04



第9圖 SI05



第10圖 SI06

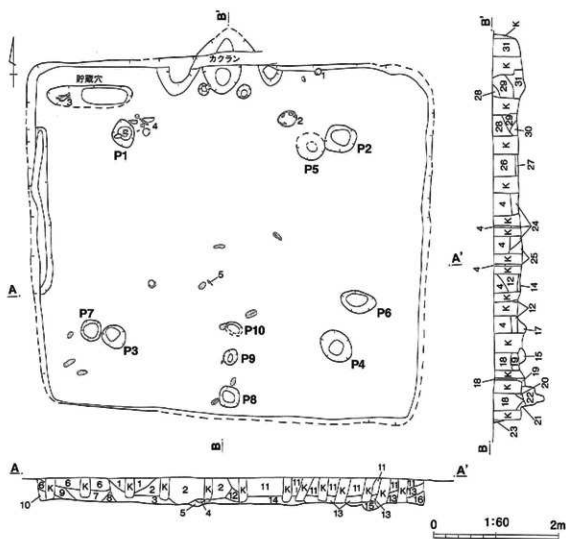


A-A' 断面

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 1 褐色土 (LJ少, 中わら64) | 15 褐色土 (LJ少) |
| 2 褐色土 (LJ少, 中やわら64) | 16 碧褐色土 (LJ中多) |
| 3 褐色土 (LJ中多, やわら64) | 17 褐色土 (LJ少, SYE, CR少) |
| 4 褐色土 (LJ少, 堀小L部, 浮腫, CR少) | 18 褐色土 (LJ少, CR少) |
| 5 褐色土 (LJ中多, CR少) | 19 褐色土 (LJ中多, SY少, CR少) |
| 6 碧褐色土 (LJ中多, 堀小L部) | 20 褐色土 (LJ中多, SYE, CR少) |
| 7 碧褐色土 (LJ中多, 中やわら64) | 21 褐色土 (LJ中多, SYE, CR少) |
| 8 碧褐色土 (LJ中多, 堀小L部) | 22 褐色土 (LJ中多, 堀小L部, SY中多, CR少) |
| 9 碧褐色土 (LJ中多, 堀小L部, 浮腫) | 23 褐色土 (LJ中多, SY中多, CR少) |
| 10 碧褐色土 (LJ中多) | 24 碧褐色土 (LJ中多, SY少, やわら64) |
| 11 褐色土 (LJ中多) | 25 褐色土 (LJ中多, SY少, CR少, 64) |
| 12 褐色土 (LJ少, CR少) | 26 碧褐色土 (LJ中多, SY少) |
| 13 碧褐色土 (LJ中多, やわら64) | 27 褐色土 (LJ中多, 堀小L部, やわら64) |
| 14 碧褐色土 (LJ中多, 堀小L部) | |

L=103.00m

第11図 SIO7

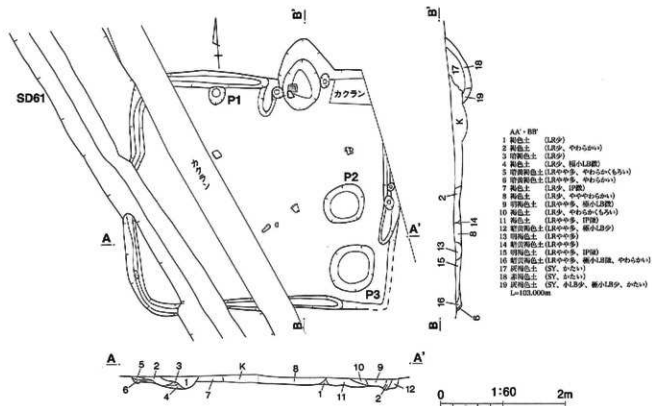


AA'・BB'

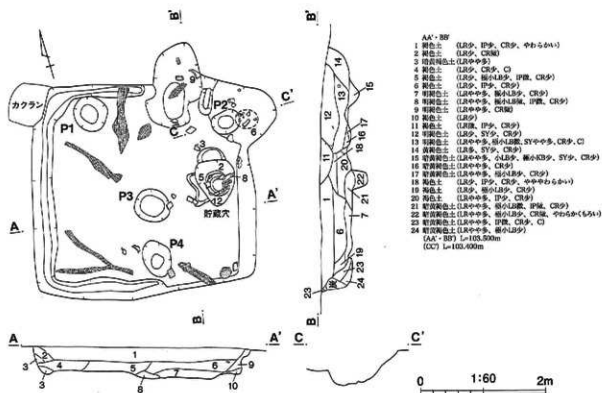
- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| 1 褐色土 (L灰少, IP質, もろい) | 17 暗黄褐色土 (L灰中多, 中中わたらぬ) |
| 2 褐色土 (L灰少, 礫小L層) | 18 褐色土 (L灰少, 礫小L層, IP質, 中中わたらぬ) |
| 3 暗褐色土 (L灰中多, 礫小L少, IP質) | 19 褐色土 (L灰中多, やわらぬ) |
| 4 黄褐色土 (L灰少, IP質) | 20 暗黄褐色土 (L灰中多, IP質) |
| 5 暗黄褐色土 (L灰中多, 礫小L少) | 21 暗黄褐色土 (L灰中多, IP質, やわらぬ) |
| 6 褐色土 (L灰少, IP質, やわらぬ) | 22 暗黄褐色土 (L灰中多, 礫小L層, とてもわたらぬ) |
| 7 黄褐色土 (L灰少, IP質) | 23 暗黄褐色土 (L灰中多, やわらぬ) |
| 8 暗黄褐色土 (L灰中多, 礫小L層, やわらぬ) | 24 褐色土 (L灰中多, IP質) |
| 9 黄褐色土 (L灰中多, CR質, やわらぬ) | 25 褐色土 (L灰中多) |
| 10 暗黄褐色土 (L灰中多, 中中わたらぬ) | 26 褐色土 (L灰少, やわらぬ) |
| 11 褐色土 (L灰少, IP質, 中中わたらぬ) | 27 暗黄褐色土 (L灰中多, 礫小L少) |
| 12 褐色土 (L灰少) | 28 黄褐色土 (L灰少, SY, CR質) |
| 13 褐色土 (L灰少, 礫小L層, IP質) | 29 暗褐色土 (L灰中多, SY中多, CR少) |
| 14 暗黄褐色土 (L灰中多, IP質) | 30 暗黄褐色土 (L灰中多, SY少, CR質) |
| 15 暗黄褐色土 (L灰中多) | 31 黄褐色土 (L灰中多, 礫小L少, SY多, CR多) |
| 16 褐色土 (L灰少) | |

L=102.700m

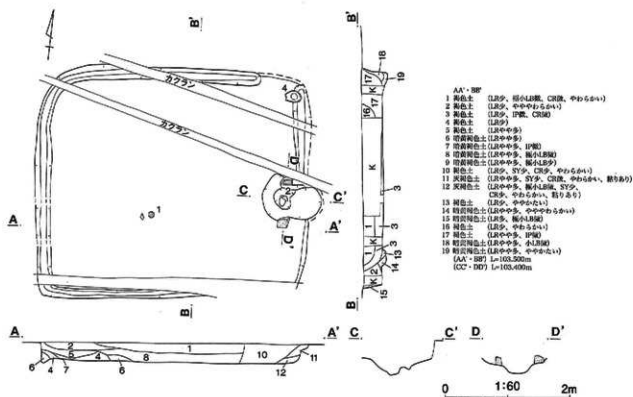
第12図 SIO8



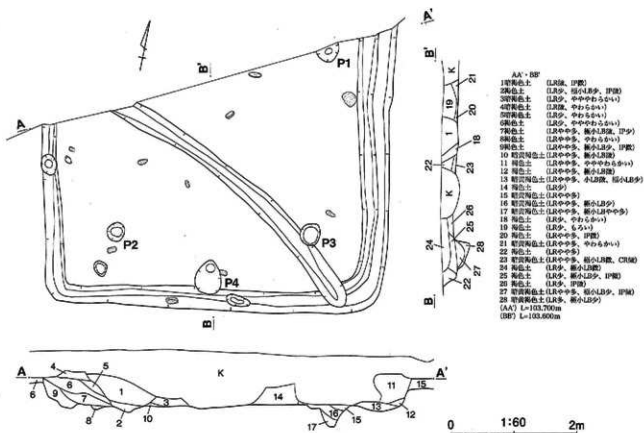
第13図 SI09



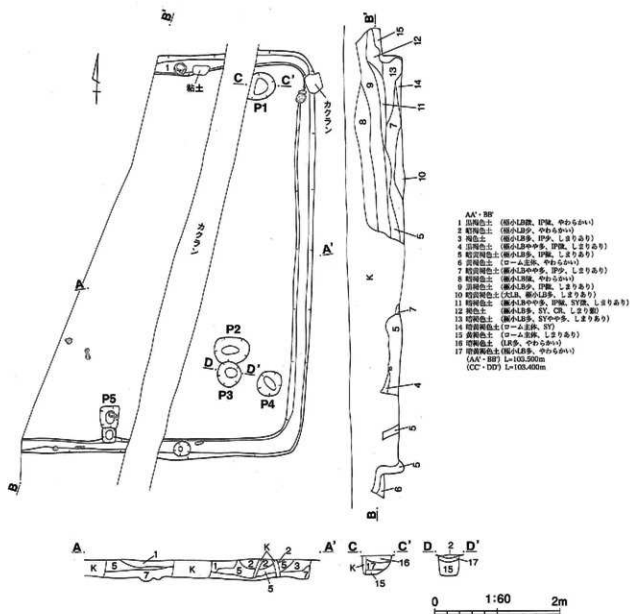
第14図 SI10



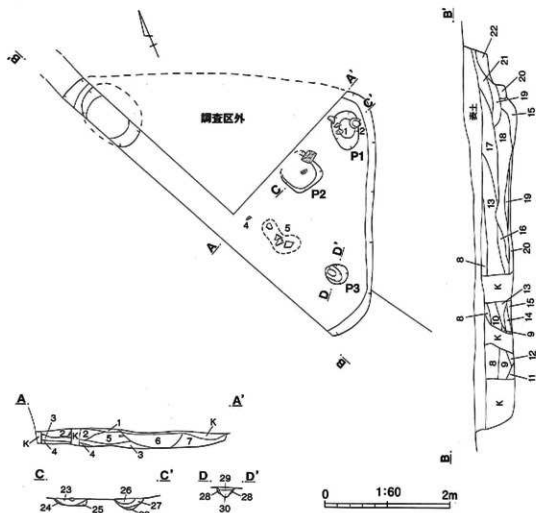
第15図 S11



第16図 S12



第17図 SI13

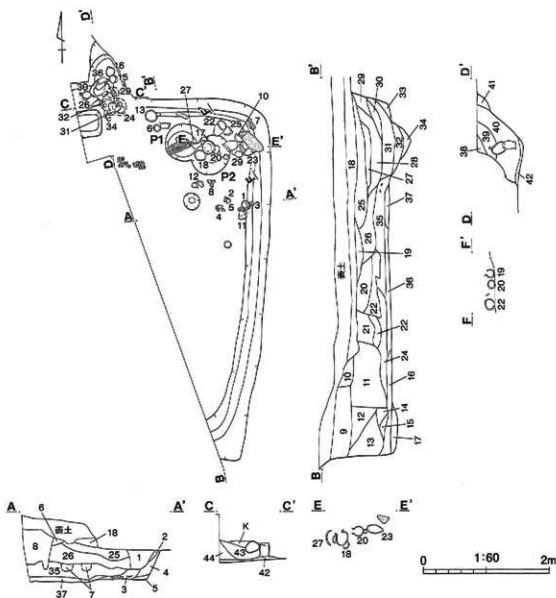


A.A'・B.B'

- 1 紫褐色土 (L.R.少, 礫小L.R.少)
- 2 紫褐色土 (L.R.少, 礫小L.R.中-中多, SY無)
- 3 褐色土 (L.R.中-中多, 礫小L.R.中, SY無)
- 4 暗黄褐色土 (L.R.多, 礫小L.R.中-中多)
- 5 褐色土 (L.R.中-中多, 礫小L.R.中, SY少)
- 6 褐色土 (L.R.中-中多, 礫小L.R.中, SY中-中多)
- 7 褐色土 (L.R.中-中多, 礫小L.R.多, 小L.R.少, SY中-中多)
- 8 暗褐色土 (L.R.少, 礫小L.R.無, 少ない)
- 9 褐色土 (L.R.中-中多, 礫小L.R.中, SY無, 少ない)
- 10 暗褐色土 (L.R.少, 礫小L.R.中-中多, 少ない)
- 11 暗褐色土 (L.R.多)
- 12 黄褐色土 (L.R.少, 礫小L.R.多)
- 13 赤褐色土 (L.R.少, 礫小L.R.少, SY無)
- 14 紫褐色土 (L.R.中-中多, 礫小L.R.中-中多, SY無, 少ない)
- 15 紫褐色土 (L.R.中-中多, 礫小L.R.中, 少ない)
- 16 紫褐色土 (L.R.中-中多, 礫小L.R.中-中多, CH無, SY無, 少ない)
- 17 暗黄褐色土 (L.R.中-中多, 礫小L.R.少, 少ない)

- 18 暗褐色土 (L.R.中-中多, 礫小L.R.中-中多, 小L.R.無, C)
 - 19 暗褐色土 (L.R.多, 礫小L.R.多, 小L.R.少)
 - 20 黄褐色土 (ローム土層, 少ない)
 - 21 暗褐色土 (L.R.中-中多, 礫小L.R.少)
 - 22 褐色土 (L.R.中-中多, 礫小L.R.少)
 - 23 暗褐色土 (L.R.多, SY, 中-中多から少+)
 - 24 黄褐色土 (L.R.多, 少ない)
 - 25 暗褐色土 (ローム土層, 少ない)
 - 26 暗褐色土 (L.R.中-中多, 礫小L.R.少, SY, 中-中多から少+)
 - 27 暗黄褐色土 (L.R.多, 礫小L.R.無, 中-中多から少+)
 - 28 黄褐色土 (L.R.多)
 - 29 暗褐色土 (L.R.少, 中-中多から少+)
 - 30 暗黄褐色土 (L.R.多, 小L.R.少)
- (AA') L=103.100m
 (BB') L=103.600m
 (CC') L=102.700m
 (DD') L=102.500m

第18図 S14

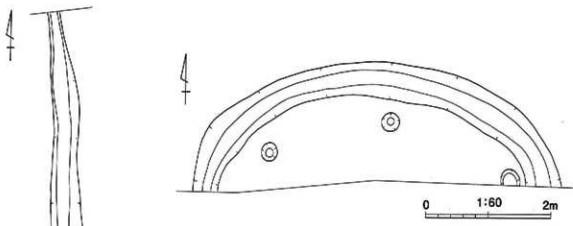


AA'・BB'

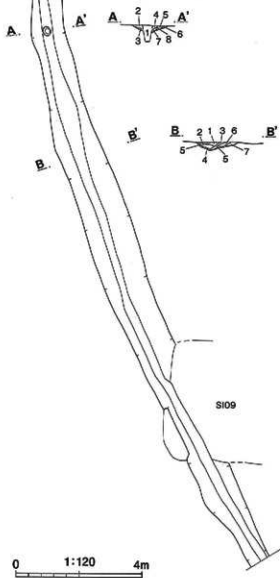
- 1 暗黄褐色土 (L) 少, 礫小L少, 砂多)
- 2 黄褐色土 (L) 中多, 礫小L少, 砂多)
- 3 暗黄褐色土 (L) 中多, 小L少, C, 砂多)
- 4 暗黄褐色土 (L) 多, 小L少, SY, 砂多)
- 5 暗黄褐色土 (L) 多, 小L少中多, SY, 砂多)
- 6 暗黄褐色土 (L) 少, 礫小L少, 中砂中多)
- 7 暗黄褐色土 (L) 少, 礫小L少)
- 8 黄褐色土 (L) 中)
- 9 黄褐色土 (L) 中)
- 10 黄褐色土 (L) 中, 礫小L中, 中砂多)
- 11 黄褐色土 (L) 中, 礫小L中, 中砂多 (6.5)
- 12 黄褐色土 (L) 中, 礫小L中)
- 13 黄褐色土 (L) 中, 砂多)
- 14 暗黄褐色土 (L) 中)
- 15 暗黄褐色土 (L) 中, 礫小L少, CR, 砂多)
- 16 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L少, CR, SY, 砂多)
- 17 暗黄褐色土 (L) 中多, 小L少中多, 砂多)
- 18 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L中中多, IP, 砂多)
- 19 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L少, 砂多)
- 20 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L中)
- 21 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L中, 中砂多)
- 22 黄褐色土 (L) 中, 砂多, 中砂多 (6.5)
- 23 暗黄褐色土 (L) 中, 礫小L中, 中砂多)
- 24 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L中中多, IP, CR)

- 25 暗黄褐色土 (L) 少, 礫小L少, IP, 砂多)
 - 26 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L少, 砂多)
 - 27 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L中中多, 砂多)
 - 28 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L中多, 砂多)
 - 29 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L中多, 砂多)
 - 30 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L中中多, 砂多)
 - 31 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L少, IP, CR, 砂多)
 - 32 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L中中多, IP, CR)
 - 33 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L中中多, 砂多)
 - 34 暗黄褐色土 (L) 中多, 小L中)
 - 35 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L中中多, IP, CR)
 - 36 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L中中多, 砂多)
 - 37 暗黄褐色土 (L) 中多, 礫小L中中多)
 - 38 黄褐色土 (L) 中多, 小L中, SY, 中砂多)
 - 39 暗黄褐色土 (L) 中多, SY)
 - 40 黄褐色土 (L) 中多, SY)
 - 41 黄褐色土 (L) 中)
 - 42 暗黄褐色土 (L) 中)
 - 43 暗黄褐色土 (L) 中多, SY, C)
 - 44 暗黄褐色土 (L) 中)
- (AA'・BB') L=102,800m
(CC'・DD') L=102,500m
(EE'・FF') L=102,100m

第19図 S115



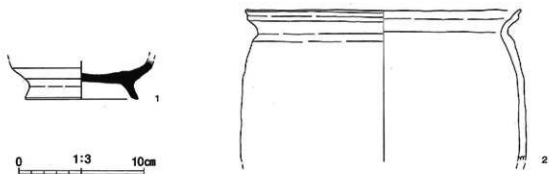
第21圖 SX01



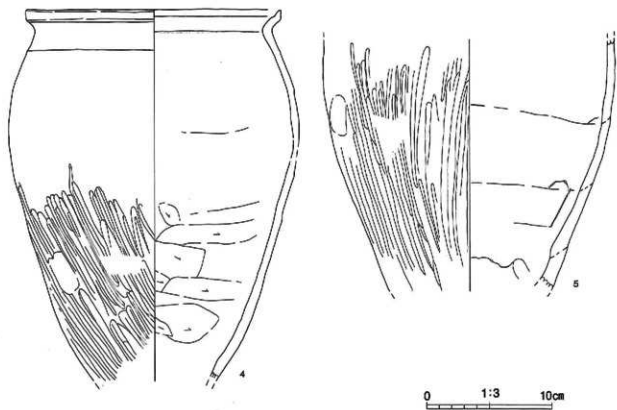
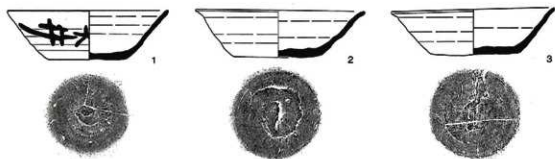
- AA'
- 1 褐色土 (L.R.少、細小石混、中わたら(5.5%))
 - 2 褐色土 (L.R.少)
 - 3 暗赤褐色土(L.R.中多、細小石少)
 - 4 褐色土 (L.R.少)
 - 5 褐色土 (L.R.中多)
 - 6 褐色土 (L.R.中多、中わたら(1%))
 - 7 褐色土 (L.R.少、中わたら(1%))
 - 8 暗赤褐色土 (L.R.中多)
- L=103.400m

- BB'
- 1 褐色土 (L.R.少、伊泥)
 - 2 褐色土 (L.R.少、中わたら(1%))
 - 3 褐色土 (L.R.中多、中わたら(4%))
 - 4 暗赤褐色土(L.R.中多、細小石混、中わたら(1%))
 - 5 暗赤褐色土(L.R.中多)
 - 6 褐色土 (L.R.少)
 - 7 褐色土 (L.R.中多)
- L=103.400m

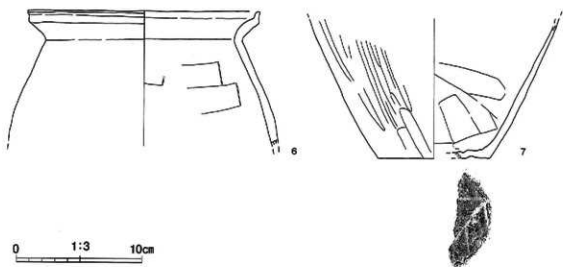
第20圖 SD01



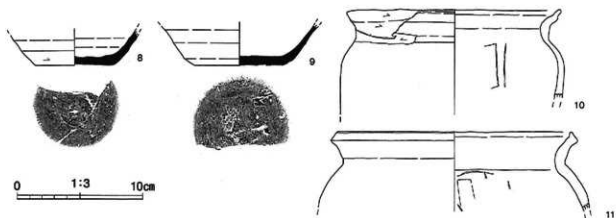
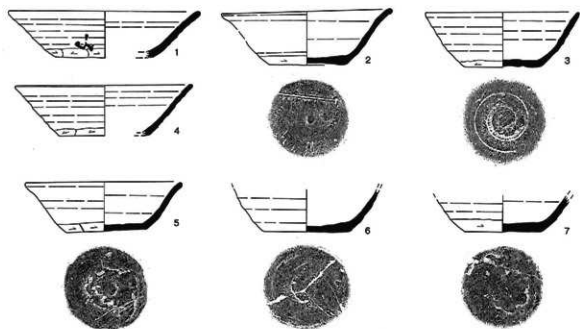
第22図 S103 出土遺物



第23図 S104出土遺物 (1)



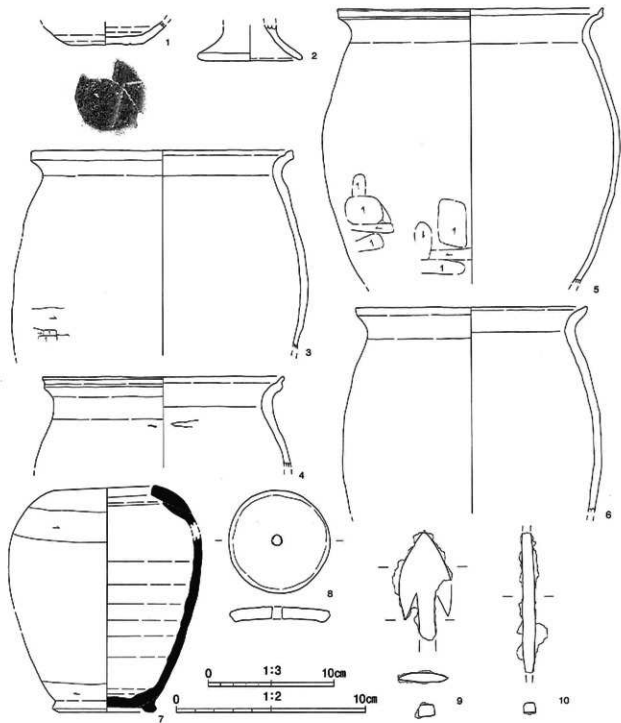
第24図 SI04出土遺物 (2)



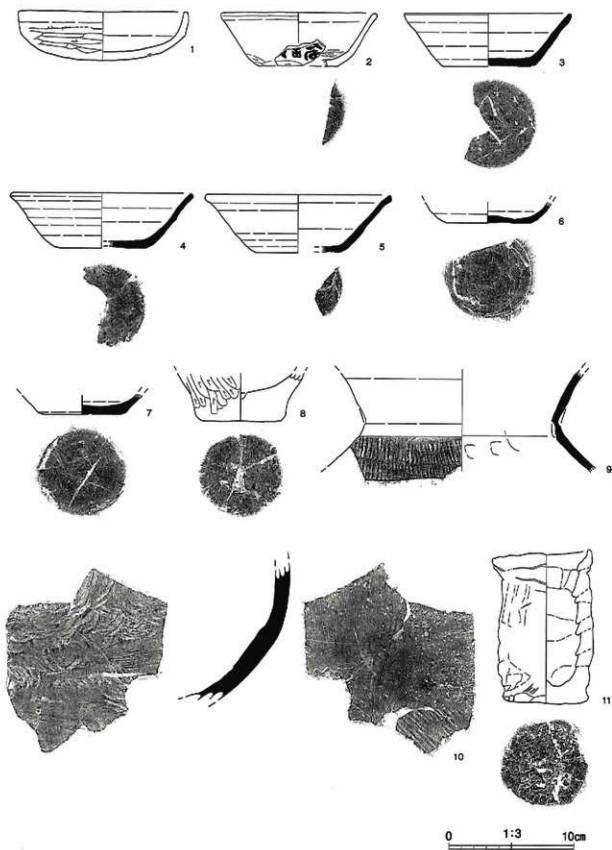
第25図 SI05出土遺物 (1)



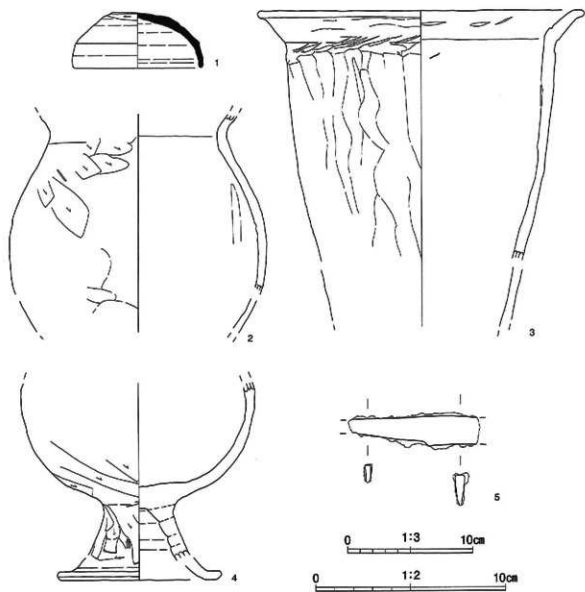
第26図 SIO5出土遺物 (2)



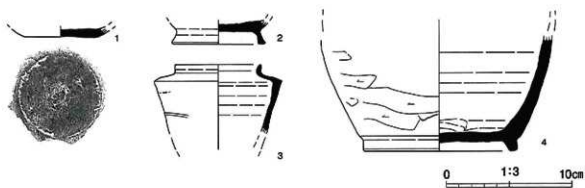
第27図 SIO6出土遺物



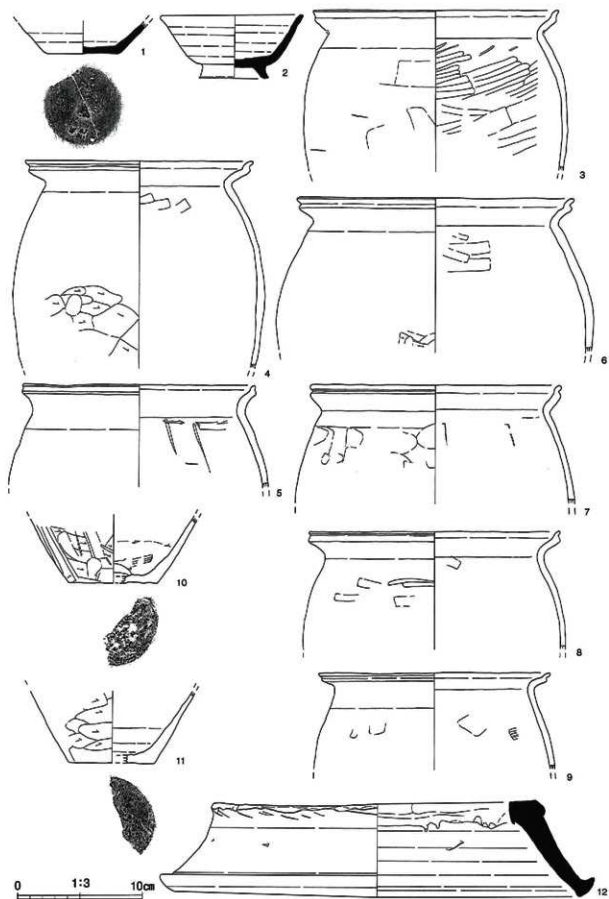
第28图 SI07出土遗物



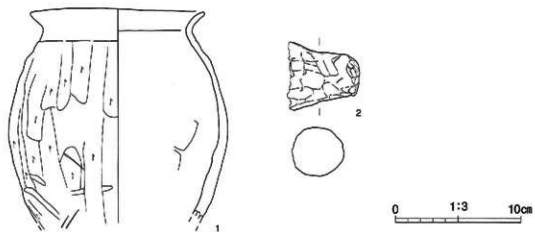
第29圖 SI08出土遺物



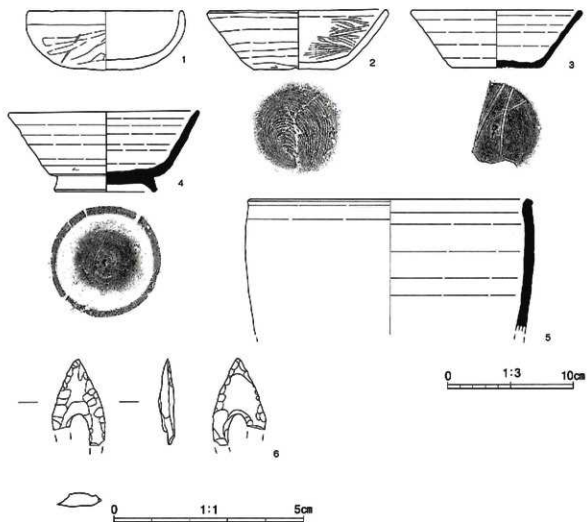
第31圖 SI11出土遺物



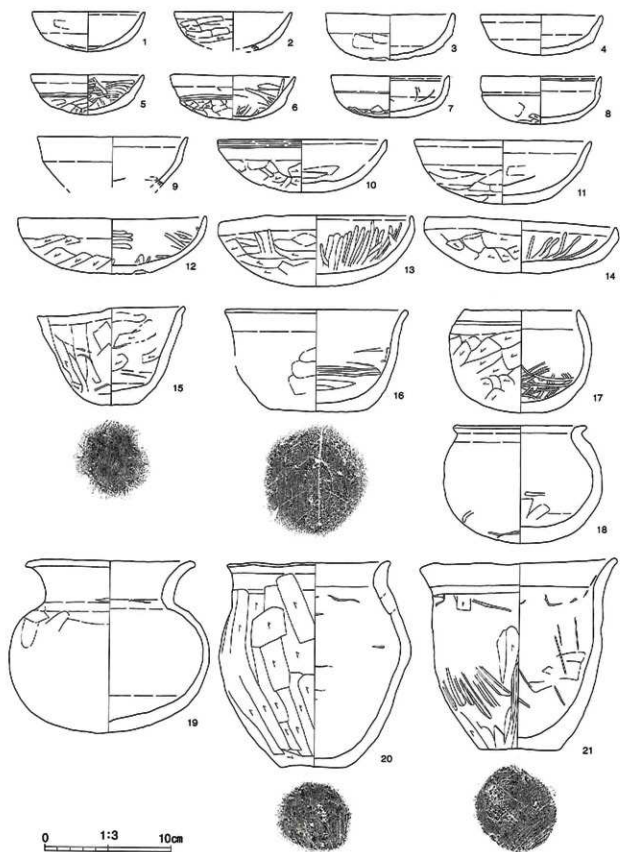
第30図 S110出土遺物



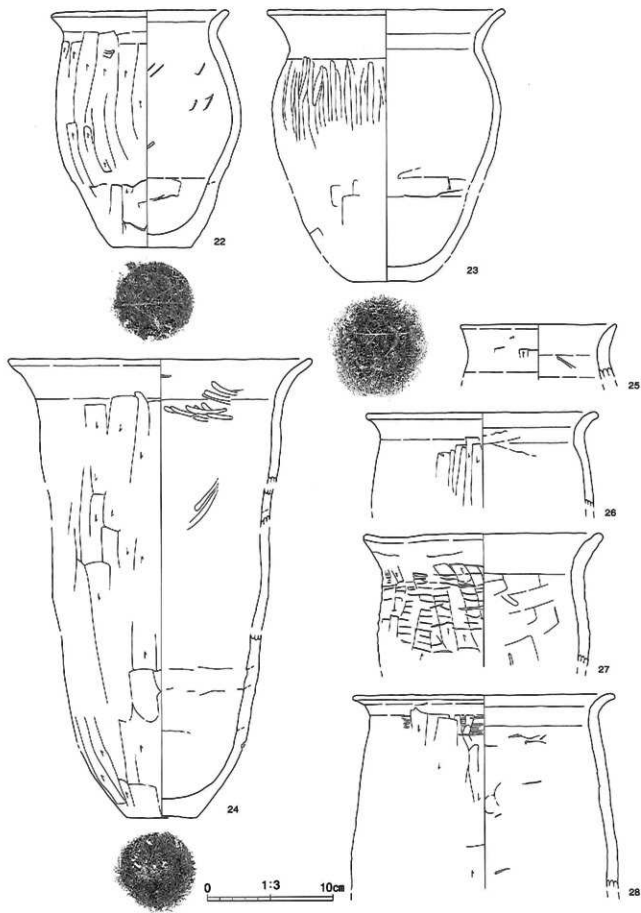
第32図 SI13出土遺物



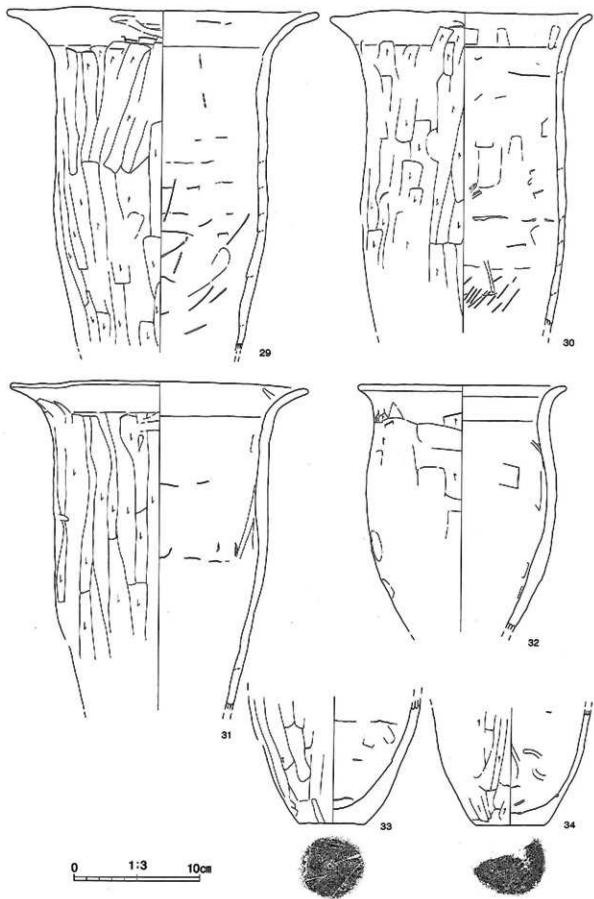
第33図 SI14出土遺物



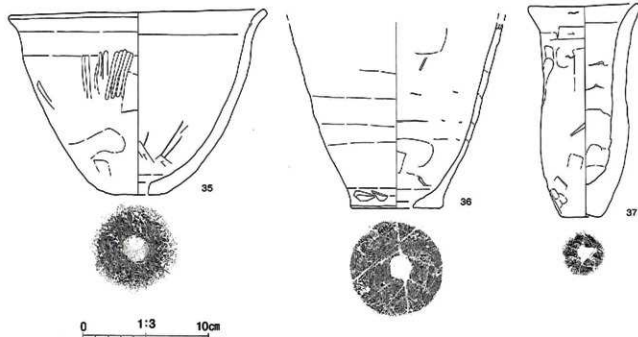
第34圖 SI15出土遺物(1)



第35図 S115出土遺物 (2)



第36圖 SI15出土遺物 (3)



第37図 SI15出土遺物 (4)

第2表 SI03出土遺物観察表

No	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器 高台付杯	-	(3.2)	9.0	右回転のロクロ成形。		灰(10Y5/1)	白色砂粒	良好	甕土下層	1/5残
2	土師器 壺	22.0	(12.0)	-	口縁部はくの字状に外反し、胎部に縦を有する。	口縁部割ナデ。	にぶい肌(7.5YR7/4) 一帯、赤味肌 (2.5YR5/8)	黒砂粒	良好	カマド内	1/4残

第3表 SI04出土遺物観察表

No	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器 杯	12.8	3.9	6.1	右回転のロクロ成形、平底。	底面回転ヘラ切り。	灰(10Y5/1)	赤色スコリア質 砂粒 黒色細砂粒	良好	甕土下層	5/6残 器背「口弁」
2	須恵器 杯	13.5	3.8	7.0	右回転のロクロ成形、平底。	底面回転ヘラ切り。	灰(10Y5/1)	白色細砂粒 黒砂粒	良好	床面直上	5/6残
3	須恵器 杯	13.0	3.8	7.2	右回転のロクロ成形、平底。	底面ヘラ切り。底面外面にヘラ 返す。	灰(7.5Y5/1)	黒砂粒	良好	床面直上	6/7残
4	須恵器 壺	20.2	(29.4)	-	口縁部はくの字状に外反し、胎 部に垂直に立ち上がる。	口縁部割ナデ、胴部外面下平は 縦方向にヘラナデ。	灰(5YR6/6)	雲母 白色細砂粒 赤色スコリア質	良好	甕土下層	3/5残
5	土師器 壺	-	(20.0)	-	長胴壺。	外面ナデ後ヘラ磨き、内面ヘラ ナデ。	外:にぶい肌(2.5Y4/2) 内:黒灰質(2.5Y4/2)	雲母 黒砂粒 赤色スコリア質	良好	甕土中層	1/5残
6	須恵器 壺	18.4	(10.4)	-	口縁部はくの字状に外反し、胎 部に垂直に立ち上がる。	口縁部割ナデ、内面ヘラナデ。	にぶい肌 (7.5YR6/4)	黒砂粒 雲母	良好	甕土下層	1/10残
7	土師器 壺	-	(11.0)	8.9	平底、木製蓋。	外面ヘラナデ、スス付否、内面ナ デ。	明赤粉(S9Y5/6)	黒砂粒、雲母	良好	甕土下層	1/16残

第4表 SI05出土遺物観察表

No	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器 杯	(15.2)	3.7	(7.7)	ロクロ目を残して底面から口縁 にかけて緩やかに広がる。	底面回転ヘラナデ。	にぶい肌(7.5YR5/3) 口縁部、黒(2/0)	雲母、黒砂粒	良好	甕土中	1/6残 器背
2	須恵器 杯	13.5	4.5	6.1	平底、口縁端部が外反する。	底面回転ヘラナデ、底面外面 ヘラ返す。	灰白(5Y7/1) 敷(5YR7/6)	砂粒	普通	甕土中層	2/3残
3	須恵器 杯	12.2	4.5	6.1	右回転ロクロ成形、平底。	底面回転ヘラ切り。	灰肌(2.5Y6/1) 浅灰(2.5Y7/5)	白色細砂粒 砂粒、雲母	良好	甕土中	1/3残
4	須恵器 杯	14.0	4.0	(7.0)	右回転ロクロ成形、平底。	底面回転ヘラナデ。	にぶい肌(10YR5/3) 口縁部、黒(2.5Y2/1)	雲母、砂粒	良好	甕土中層	1/3残
5	須恵器 杯	12.4	4.1	6.3	右回転ロクロ成形、平底。口縁 端部は外反する。	底面回転ヘラナデ。	灰白(7.5Y7/1)	黒砂粒	良好	甕土下層	5/6残
6	須恵器 杯	-	(3.4)	6.9	右回転ロクロ成形、平底。	底面回転ヘラ切り。	灰(7.5Y5/1)	砂粒 白色細砂粒	良好	甕土中	1/3残

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	高さ	底径							
7	右形器 片	—	(2.9)	6.1	右形碗口ロ成形, 平底。	底部, 底縁周縁へつ切り。	灰(10Y5/1)	砂粒 白色顔砂散	良好	覆土中	1/5枚
8	右形器 片	—	(2.9)	6.2	右形碗口ロ成形, 平底か。	底部周縁へつ切り, 体部下平までへつ切り。	灰(10Y5/1)	白色顔砂散 新砂散	良好	覆土下層	1/4枚
9	右形器 片	—	(3.4)	7.3	右形碗口ロ成形, 平底。	底部へつケズリ。	灰赤(2.5YR4/2)	白色顔砂散	良好	覆土か	1/3枚
10	土師器 夾	17.0	(8.3)	—	口縁部はくの字状に外反し, 底部は短く外反し立ち上がり, 口縁部の一部は胎土を貼り付している。	口縁部横ナズ, 内面へつケズリ。	にぶい・黄(7.5YR5/4)	雲母, 顔砂散	良好	覆土下層	1/6枚
11	土師器 夾	18.6	(6.3)	—	口縁部はくの字状に外反し, 口縁部は短く垂直に立ち上がり。	口縁部横ナズ, 内面一部へつケズリ。	黄(5YR6/6)	顔砂散, 雲母	良好	カマド内	1/10以下残
12	土師器 夾	23.6	(7.7)	—	口縁部はくの字状に外反し, 口縁部はやや立ち上がり。	口縁部横ナズ。	明赤黄(5YR5/6) 一部, 黄褐(2.5YR6/3)	顔砂散, 雲母	良好	覆土下層	1/10枚
No	器種	法量 (cm)			特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考	
13	絞輪車	径: 8.5 ~ 8.7 厚: 0.8, 孔径: 0.8			土師製, 平底部を転用。	にぶい・黄(7.5YR5/4)	顔砂散	普通	覆土下層		

第5表 SIO6出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	高さ	底径							
1	土師器 杯	—	(1.8)	5.5	右形碗口ロ成形, 平底。	底部へつケズリ, 内外面にスチ付着。	にぶい・黄(7.5YR5/3) 一部, にぶい・赤黄(5YR5/4)	白色顔砂散 顔砂散	良好	覆土中	1/5枚
2	土師器 合付夾	—	(2.8)	8.3	溝部のみ残。	全面ナズ。	黄(7.5YR6/6)	微細砂粒	良好	覆土中	胴部3/4残
3	土師器 夾	20.6	(16.2)	—	口縁部は直内向外反し, 底部は短く垂直に立ち上がり, 口縁部のみあり。	口縁部横ナズ, 胴部一部へつケズリ。	明赤黄(2.5YR5/6)	顔砂散 白色顔砂散	良好	床面直上	1/2枚
4	土師器 夾	19.2	(7.2)	—	口縁部はくの字状に外反し, 底部はつまみ上げ。	口縁部横ナズ。	にぶい・黄(7.5YR5/4)	顔砂散, 小石 白色砂散	良好	覆土中層	1/10枚
5	土師器 夾	21.2	(21.7)	—	口縁部はくの字状に外反し, 底部は短く垂直に立ち上げている。縁部あり。	口縁部横ナズ, 胴部下平一部にへつケズリ, 外面にスチ付着。	明赤黄(2.5YR5/8) 一部, 黄褐(5YR2/1)	雲母, 顔砂散 新砂散	良好	床面直上	1/2枚
6	土師器 夾	18.4	(16.4)	—	口縁部はくの字状に外反し, 底部は短くやや立ち上がり。口縁部のみあり。	内外面ともに厚みが薄く, 調整不明。	黄(7.5YR6/6) 一部, 黄(5YR6/6)	白色顔砂散	良好	カマド内	1/2枚
7	右形器 底面取 底面取	7.8	18.0	8.2	口ロ成形, 短い脚部を有する。口縁部は風船技法を用いて調整。	上, 下部にへつケズリ, 口縁部と脚部接合時の調整か。	にぶい・赤黄(5YR5/4) 赤々, 黄褐(7.5YR3/1)	白色顔砂散 顔砂散, 砂粒	良好	カマド内	3/4残
No	器種	法量 (cm)			特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考	
8	絞輪車	径: 8.0 ~ 8.1 厚: 0.9, 孔径: 0.8			印型製, 高台付底部を転用。	灰(7.5Y6/1)	白色顔砂散	良好	床面直上	完形	
No	器種	特殊部			法量 (cm)	器形特徴	重量 (g)	出土地点	備考		
9	丸蓋	胴身部へ胴部			(胴身) 径: 4.65, 高: (2.8), 厚: (0.56) (胴部) 径: (2.5), 厚: 0.9, 径: 0.55	薄板三角蓋	10.32g	覆土中			
10	丸蓋	胴部			径: (7.4), 高: 0.65, 厚: 0.55	—	6.83g	覆土中	無蓋か		

第6表 SIO7出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	高さ	底径							
1	土師器 杯	(13.4)	3.9	—	丸底, 口縁部はやや立ち上がり。	口縁部横ナズ, 体部から底部にかけてへつケズリ, 口縁部内外面に黄色色染み。	にぶい・黄(7.5YR6/4)	黄色顔砂散	良好	覆土下層	1/2枚
2	土師器 杯	(13.6)	4.2	(6.2)	平底, 口縁部は中や外反する。	底部, 底縁周縁へつケズリ, 底部内面へつケズリ, 内面黄色色染み。	外: 黄(7.5YR6/0) 赤黄(10YR3/1) 内: 黄(1N1.5)	顔砂散 砂母	良好	覆土中	1/5枚 蓋部・他出口。
3	右形器 片	(13.2)	4.2	(6.8)	右形碗口ロ成形, 平底。	底部へつケズリ, へつ切か。	黄灰(2.5Y4/1)	顔砂散, 小石 白色砂散	良好	覆土上層	1/2枚
4	右形器 片	(14.4)	4.4	(6.4)	右形碗口ロ成形, 平底, 口縁部はやや外反する。	底部へつケズリ, 外面底部から体部にかけてへつケズリ。	灰白(2.5Y7/1) 一部, にぶい・黄灰(10YR7/3)	新砂散	良好	覆土中	1/3枚
5	右形器 片	(14.6)	4.6	(6.8)	右形碗口ロ成形, 平底, 口縁部はやや外反する。	赤褐色。	黄灰(2.5Y4/1)	顔砂散, 小石 白色顔砂散	良好	覆土上層	1/5枚
6	右形器 片	—	(1.7)	(6.8)	右形碗口ロ成形, 平底。	底部周縁へつケズリ。	灰黄(2.5Y7/2)	顔砂散, 小石	良好	覆土中	1/5枚
7	右形器 片	—	(1.6)	7.0	右形碗口ロ成形, 平底。	底部へつケズリ, へつ切か。	にぶい・黄(7.5YR5/3) 底赤, 灰(5YR7/4)	顔砂散, 小石	良好	覆土中	1/6枚
8	土師器 夾	—	(3.8)	6.2	厚手。	底部から胴部に向けてへつケズリ。	にぶい・黄(7.5YR7/4)	新砂散 白色顔砂散	良好	覆土中	1/10枚 底部外面に植物繊維状のものが付着。
9	右形器 片	—	(7.3)	底径: 15.6	胴部はくの字状に外反。	外面縁方向の平行切目。	暗黄灰(2.5Y4/2)	顔砂散 白色顔砂散	良好	覆土下層	1/15枚
10	右形器 片	—	(10.8)	—	薄板製。	外面へつケズリ後, 2条1組の線状文状, 内面同心円文状で具装ナズ。	外: 灰白(2.5Y7/1) 内: 灰白(5Y7/1) 胎土: 黄(5YR6/6)	砂粒, 小石 白色顔砂散	良好	覆土下層	1/15枚
11	土師器 杯蓋?	8.0	12.2	6.8	厚手。	輪郭のみ残。	外: にぶい・黄褐(10YR5/3) 一部, 黄灰(10YR4/1) 内: 黄褐(10YR3/1)	砂粒 白色砂散	普通	覆土下層	皿状完形

第7表 SI08出土遺物観察表

No	品名	法量 (cm)			形状の特徴	装束の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器 片蓋	10.2	4.4	4.5	右回転ロクロ成形、丸みを帯びている。体部に粒がわずかに露出できる。	上部ヘラケズリ。	外:灰(10Y6/1) 内:灰(5Y6/1)	砂粒 白色細砂粒	良好	甕土下層	完形
2	土師器 甕	-	(17.1)	-	球胴部。	胴部横ナズ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラケズリの痕跡。	外:黒(10YR2/1) 内:赤褐色(10YR6/3) 内:赤褐色(7.5YR6/4) 灰黄褐色(10YR5/2)	細砂粒	普通	床面直上	1/3残
3	土師器 鉢	26.0	(23.0)	-	長胴部、口縁部はくの字状に張り、底部は短く外反。	口縁部横ナズ、胴部外面ヘラケズリ、胴部外面ナズ、ヘラケズリ。	外:赤褐色(10YR7/3) 内:赤褐色(10YR8/3) 内:黄褐色(10YR8/3)	細砂粒、小石 黒色細砂粒	良好	甕土下層	1/3残
4	土師器 脚付皿	-	(16.6)	13.0	短胴部の胴部への字状に広がる脚部を有する。	外面ヘラケズリ、内面スス付着。	外:橙(5YR6/4) 内:橙(2.5YR6/6)	砂粒、小石	良好	床面直上	1/2残
5	刀子	残存部									
		法量 (cm)									
		口径	器高	底径	(基準)長:(4.1)、幅:0.9、厚:0.3/(刃部)長:(2.7)、幅:1.4、厚:0.5						
								重量 (g)		出土地点	備考
								11.10g		床面直上	

第8表 SI10出土遺物観察表

No	品名	法量 (cm)			形状の特徴	装束の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器 杯	-	(2.6)	5.6	右回転ロクロ成形、平底。		灰オリーブ(5Y5/2)	細砂粒、小石	良好	甕土中	1/3残
2	須恵器 高台付杯	(11.3)	5.1	5.4	右回転ロクロ成形、胴部は短く、への字状に張り、口縁部はわずかに外反する。		外:灰赤(10YR4/1) 内:灰赤(2.5Y6/1)	細砂粒 白色細砂粒	良好	甕土下層	完形
3	土師器 甕	(19.6)	(12.7)	-	口縁部はほぼ直内反外反、縦を2股もつ、口縁部はつまみ上げながら外反。	口縁部横ナズ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラケズリ、ススの付着あり。	赤褐色(2.5YR4/6) 口縁一部、黒(10YR2/1)	細砂粒、小石	普通	甕土下層	1/10残
4	土師器 甕	(18.0)	(16.4)	-	口縁部はくの字状に外反し、縦をもつ、口縁部はつまみ上げながら外反。	口縁部横ナズ、胴部外面ヘラケズリ。	外:橙(7.5YR7/6) 内:灰白(7.5YR8/2)	細砂粒、小石	普通	床面直上	1/10残
5	土師器 甕	(18.4)	(8.1)	-	口縁部はほぼ直内反外反、縦をもつ、口縁部はつまみ上げながら外反。	口縁部横ナズ、胴部内面ヘラケズリ、スス付着。	外:橙(2.5YR6/6) 内:橙(5YR8/3)	細砂粒	良好	野塚穴内	1/10残
6	土師器 甕	(21.8)	(15.2)	-	口縁部はくの字状に外反し、縦をもつ、口縁部はつまみ上げながら外反。	口縁部横ナズ、胴部外面一部ヘラケズリ、内面一部ヘラケズリ。	外:橙(5YR6/6) 内:橙(7.5YR7/6) 黄褐色(7.5YR8/3)	砂粒 黒色細砂粒	普通	床面直上	1/10残
7	土師器 甕	(20.0)	(9.4)	-	口縁部はくの字状に外反し、胴部は短くつまみ上げ。	口縁部横ナズ、胴部外面ナズ、内面ヘラケズリ。	外:赤褐色(5YR6/4) 内:灰黒(7.5YR4/3) 内:灰黒(7.5YR4/2)	細砂粒	良好	甕土中	1/3残
8	土師器 甕	(19.8)	(9.3)	-	口縁部はくの字状に外反し、口縁部はつまみ上げ。	口縁部横ナズ、胴部外面一部ヘラケズリ。	外:橙(5YR6/6) 内:赤褐色(5YR5/6) 内:赤褐色(5YR5/6)	細砂粒、小石	良好	甕土下層	1/12残
9	土師器 甕	(18.4)	(7.6)	-	口縁部はほぼ直内反外反、縦をもつ、口縁部はつまみ上げながら外反。	口縁部横ナズ。	外:赤褐色(5YR6/6) 内:赤褐色(7.5YR6/4)	細砂粒	良好	カマド内	1/16残
10	土師器 甕	-	(5.4)	(7.0)	平底。	底平、胴部外面ヘラケズリ。	外:赤褐色(5YR5/6) 内:橙(5YR6/6)	砂粒 黒色細砂粒	良好	甕土中	1/15残
11	土師器 甕	-	(5.8)	(6.8)	平底。	底平ヘラケズリ、底面用縁から胴部にかけてヘラケズリ、内面ナズ。	外:赤褐色(5YR5/6) 内:赤褐色(2.5YR7/8) 内:黄褐色(10YR8/3)	黒色細砂粒 小石	普通	甕土下層	1/16残
12	須恵器 脚付	-	7.8	34.5	ロクロ成形、胴部は短く上げられるようにつまみ上げている。	内面に輪付着。	灰(5Y5/1) 内:灰(2.5Y7/3) 内:橙(7.5YR6/4)	細砂粒 白色砂粒	良好	野塚穴内	完形

第9表 SI11出土遺物観察表

No	品名	法量 (cm)			形状の特徴	装束の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器 杯	-	(0.9)	6.0	左回転ロクロ成形、平底。		灰(5Y5/1)	細砂粒 白色砂粒	良好	床面直上	1/5残
2	須恵器 高台付杯	-	(1.9)	7.4	左回転ロクロ成形、への字状に広がる脚部を有する。		灰(10Y5/1)	細砂粒、小石	良好	カマド内	1/6残
3	須恵器 短胴甕	6.8	(6.7)	-	ロクロ成形、直内反に広がる胴部をもつ、胴部は短く立ち上がる。		灰(5Y4/1) 一部、灰(10YR3/3) 灰(5Y5/1)	細砂粒、小石	良好	甕土中	1/8残
4	須恵器 長胴甕	-	(10.4)	12.0	左回転ロクロ成形、短く胴部を有する。	外面ヘラケズリ。	外:灰(5Y5/1) 灰(2.5Y6/2) 黒(2.5Y2/1) 内:黄褐色(2.5Y6/1)	細砂粒、小石 白色細砂粒	良好	床面直上	1/5残

第10表 S113出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	器径							
1	土師器 甕	13.8	(17.7)	-	口縁部はくの字状に外反, 全体厚にあまりあり。	口縁部横ナズ, 胴部外面ス付首, 縦方向のヘラズリ。	外: 灰白(7.5YR5/4) 内: 黄(5YR6/2) 底面(5YR4/2)	細砂粒, 砂粒 小石	普通	床面直上	1/3残
2	土師器 瓶口	-	(5.8)	-	中丸	全面ヘラズリ。	黄(7.5YR6/6)	砂粒, 小石 黒色細砂粒	良好		

第11表 S114出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	器径							
1	土師器 杯	12.2	4.7	(5.8)	丸底, 口縁部はやや内傾しなから立ち上がる。	口縁部横ナズ, 外面底部から底部にかけてヘラズリ。	外: 灰黄(10YR7/4) 一部, 黒 (7.5YR2/1, N1.5/)	細砂粒	普通	覆土下層	3/4残
2	土師器 杯	(14.4)	4.7	6.5	平底。	体部外面ヘラズリ, 底面未切りの黒, 底面横ヘラズリ, 体部内面ヘラズリ, ヘラズリ, 内面黒色処理。	外: 灰白(7.5YR7/4) 一部, 黒(2.5Y2/1) 内: 黒(2.5Y2/1)	砂粒, 小石 黒色砂粒	良好	覆土下層	2/3残
3	土師器 杯	(13.8)	4.7	(7.0)	平底。	底面外面ヘラズリ。	暗灰黄(2.5Y5/2)	白色砂粒 細砂粒	良好	埋土中	2/3残
4	土師器 盃付杯	15.1	6.5	8.2	右縁部クロコ成形, ハの字状に高く凸を有する。	底面外面にヘラズリ。	黄(2.5Y4/1) 一部, 黒(7.5YR4/2)	砂粒, 小石 白色砂粒	良好	覆土下層	3/4残
5	土師器 杯	22.6	(10.7)	-	口縁部は短く外反。		外: 灰(7.5Y5/1) 内: 灰(5Y5/1)	砂粒, 小石 白色細砂粒	良好	覆土下層	
No	器種	材質	法量 (cm)			重量 (g)		出土地点	備考		
6	石版	チャート	長: (2.4), 短: 最大: 1.4, 最大厚: 0.4			0.54g		埋土中			

第12表 S115出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	器径							
1	土師器 杯	9.0	3.2	-	丸底, 体部外面わずかに横をつくる。口縁部つまみ上げ。	内外面ともに厚さが薄く、調整不明, 外面ヘラズリ。	外: 黒黄(2.5Y3/1) 内: 灰(7.5Y6/4)	黒色細砂粒	普通	覆土下層	9/10残
2	土師器 杯	9.4	(3.0)	-	丸底, 半球形。	口縁部横ナズ, 体部ヘラズリ, ヘラズリ。	外: 灰白(7.5YR7/4) 内: 赤黄(10R6/8)	細砂粒, 砂粒	普通	覆土下層	2/3残
3	土師器 杯	10.2	3.7	-	丸底, 口縁部は垂直に立ち上がる。	口縁部横ナズ, 体部外面ヘラズリ, 内面黒色処理。	外: 灰黄(10YR8/4) 内: 灰黄(7.5YR6/3)	細砂粒	普通	覆土下層	ほぼ完形
4	土師器 杯	(9.8)	3.2	-	丸底, 体部外面に横を有する。口縁部つまみ上げ。	口縁部横ナズ, 内面黒色処理。	黄(10YR4/1) 内: 灰白(7.5Y7/4) 黒(10YR2/1) 黒(10YR2/1)	砂粒 黒色細砂粒	普通	覆土下層	4/5残
5	土師器 杯	(9.0)	3.2	-	丸底, 体部外面に横をもつ。	口縁部横ナズ, 体部外面ヘラズリ, 内面ヘラズリ。	外: 黒(5Y2/1) 内: 灰(7.5YR7/4)	砂粒, 小石	普通	覆土下層	2/3残
6	土師器 杯	10.0	3.6	-	丸底, 体部に横を2箇所有する。口縁部はやや外反する。	体部下半ヘラズリ, 内面ヘラズリ, ヘラズリ。	黒(10YR2/1) 外: 灰黄(10YR7/3) 一部, 灰(5YR6/6)	細砂粒, 小石 白色砂粒	良好	覆土下層	ほぼ完形
7	土師器 杯	9.4	3.4	-	丸底, 体部中に横をもつ。	口縁部横ナズ, 底面, 底面横ヘラズリ, 内面に放射状にヘラズリを当てた痕跡。	黒(2.5Y2/1) 黒(10YR2/1) 黒(7.5YR5/3)	白色細砂粒 砂粒	良好	覆土下層	ほぼ完形
8	土師器 杯	(9.6)	3.8	-	丸底, 体部外面に沈線, 口縁部つまみ上げ。	口縁部横ナズ, 外面底面横ヘラズリ, 内面黒色処理。	外: 灰黄(10YR5/1) 内: 黒(N1.5/)	細砂粒	良好	覆土下層	3/5残
9	土師器 杯	12.0	(4.0)	-	体部外面に横をもつ。口縁部はやや外反。	口縁部横ナズ, 体部外面ヘラズリ, ヘラズリ, 体部内面ヘラズリ。	外: 灰白(7.5Y7/4) 内: 灰白(7.5YR5/4)	砂粒 黒色細砂粒	良好	埋土中	1/6残
10	土師器 杯	(13.5)	4.2	-	丸底, 口縁部つまみ上げ。	口縁部横ナズ, 体部外面ヘラズリ, 内面ヘラズリ。	外: 黒(7.5YR2/1) 内: 灰黄(7.5YR3/1)	砂粒, 白色砂粒	良好	床面直上	1/2残
11	土師器 杯	14.2	5.1	-	丸底, 口縁部はやや外反する。	口縁部横ナズ, 体部外面ヘラズリ, 内面ヘラズリ, ス付首あり。	外: 灰白(10YR7/4) 内: 灰白(7.5YR5/4) 内: 灰白(10YR5/2)	白色細砂粒 砂粒, 小石	良好	床面直上	3/5残
12	土師器 杯	(15.0)	(4.7)	-	丸底, 口縁部はやや内傾し立ち上がる。	口縁部横ナズ, 体部外面ヘラズリ, 内面ヘラズリ, ヘラズリ。	外: 灰白(7.5YR5/4) 内: 灰白(7.5YR5/4) 内: 灰白(10YR7/4)	砂粒 黒色細砂粒	良好	覆土下層	3/4残
13	土師器 杯	15.7	5.7	-	丸底, 口縁部は内傾しなから立ち上がる。	口縁部横ナズ, 体部外面ヘラズリ, 内面ヘラズリ, 内面黒色処理。	黒(2.5Y2/1)	砂粒, 小石 黒色細砂粒	良好	覆土下層	9/10残
14	土師器 杯	(15.1)	4.5	-	丸底, 口縁部はやや内傾する。	口縁部横ナズ, 体部外面ヘラズリ, 内面ヘラズリ, 放射状にヘラズリ。	外: 灰黄(10YR5/2) 内: 灰黄(7.5YR6/4)	細砂粒, 砂粒	良好	覆土下層	9/10残
15	土師器 杯	11.7	7.8	-	やや平らな丸底, 口縁部は外反しなから立ち上がる。	口縁部横ナズ, 体部内面ヘラズリ, ヘラズリ。	外: 灰黄(10YR3/2) 内: 灰白(10YR6/3) 内: 灰白(10YR7/4)	砂粒 黒色細砂粒	良好	カマド内	ほぼ完形
16	土師器 杯	(14.6)	8.1	-	平底, 口縁部は短く外反。	口縁部横ナズ, 体部外面ヘラズリ, ヘラズリ, 体部内面ヘラズリ, 底面外面に木炭痕。	外: 灰白(7.5YR5/4) 内: 灰白(7.5YR5/4)	砂粒 白色細砂粒	良好	カマド内	3/5残

№	図種	法量 (cm)			図形の特徴	調整の特徴	色調	粘土	焼成	出土地点	備考
		口径	高さ	底径							
17	土師器 甕	9.2	8.1	-	丸底, 口縁部は短くつまみ上げ。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ, 内面へラケズリ。	外: 黒灰(10YR4/1) 内: 黒黄(10YR3/1)	白色砂粒 砂粒, 小石	良好	塚土下層	ほぼ完形
18	土師器 甕	10.6	9.4	-	丸底, 口縁部は短く外反する。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ, へラケズリ。	外: 黒灰(10YR4/1) 内: 黒黄(10YR3/1)	砂粒, 小石 白色粗砂粒	良好	塚土下層	ほぼ完形
19	土師器 小壺	13.5	13.8	-	丸底, 口縁部はくの字状に外反し, 胴部はかまに外反。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ。	外: 黒灰(10YR4/1) 内: 黒黄(10YR3/1)	白色粗砂粒 砂粒	普通	塚面直上	ほぼ完形
20	土師器 小壺	13.1	16.3	5.7	平底, 口縁部はくの字状に外反し, 胴部は短くつまみ上げ。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ, 内面へラケズリ, 内面は磨耗が激しく調整不明。	外: 黒灰(10YR4/1) 内: 黒黄(10YR3/2)	砂粒多 小石	良好	塚面直上	ほぼ完形
21	土師器 小壺	15.7	15.3	6.5	平底, 口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ, へラケズリ, 内面へラケズリ, 胴部外面へラケズリ。	外: 黒灰(10YR4/1) 内: 黒黄(7.5YR7/6)	粗砂粒, 小石 白色砂粒	良好	カマド内	完形
22	土師器 小壺	14.1	18.8	6.0	平底, 口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ, へラケズリ, 胴部内面へラケズリ, へラケズリ, 胴部外面にも未調整。	外: 黒灰(10YR3/3) 内: 黒黄(7.5YR3/1)	砂粒	良好	塚面直上	ほぼ完形
23	土師器 壺	(19.0)	21.5	(6.0)	平底, 口縁部はくの字状に外反。	胴部に木炭痕。胴部外面へラケズリ, へラケズリ, 下平へラケズリ, へラケズリ。	外: 黒灰(7.5YR7/6) 内: 黒黄(5YR4/6)	砂粒多 小石	普通	塚面直上	7/10残
24	土師器 壺	(24.0)	(36.3)	5.6	平底, 口縁部は縦やかに外反する。長胴型。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ, へラケズリ, 内面へラケズリ, へラケズリ, 下平へラケズリ。	外: 黒灰(5YR6/6) 内: 黒黄(7.5YR7/4)	砂粒 粗砂粒	良好	カマド内	3/4残
25	土師器 壺	(12.4)	(4.4)	-	口縁部は縦やかに外反。	口縁部横ナズ, 内外面ともにへラケズリ, スス付着。	外: 黒灰(5YR6/4) 内: 黒黄(7.5YR7/4)	砂粒 白色粗砂粒	良好	塚面直上	1/8残
26	土師器 壺	(18.4)	(7.5)	-	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ。	外: 黒灰(7.5YR7/4) 内: 黒黄(10YR3/2)	砂粒 粗砂粒	良好	カマド内	1/10残
27	土師器 壺	(19.0)	(10.5)	-	口縁部は縦やかに外反。	口縁部横ナズ, 外面へラケズリ, 内面へラケズリ。	外: 黒灰(7.5YR7/4) 内: 黒黄(10YR7/4)	砂粒 白色粗砂粒	良好	塚土下層	1/7残
28	土師器 壺	(20.8)	(15.4)	-	口縁部は(の)字状に外反。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ, へラケズリ。	黒黄(10YR3/1)	砂粒, 小石 白色粗砂粒	普通	カマド内	1/10残
29	土師器 壺	(24.8)	(27.0)	-	口縁部は大きく外反。長胴型。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ, へラケズリ, 胴部内面へラケズリ。	外: 黒灰(5YR6/6) 内: 黒黄(7.5YR6/4)	砂粒 粗砂粒 小石	普通	カマド内	1/3残
30	土師器 壺	(20.8)	(25.5)	-	口縁部は縦やかに外反。長胴型。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ, 内面へラケズリ。	外: 黒灰(7.5YR4/2) 内: 黒黄(10YR4/2)	砂粒, 小石 白色粗砂粒	良好	カマド内	3/5残
31	土師器 壺	23.5	(16.0)	-	口縁部は大きく外反。長胴型。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ, 内面へラケズリ, へラケズリ, 胴部内面へラケズリ, 胴部内面へラケズリ。	外: 黒灰(5YR6/6) 内: 黒黄(7.5YR7/4)	砂粒 小石	良好	カマド内	3/5残
32	土師器 壺	(16.6)	(19.5)	-	口縁部は縦やかに外反。型あり。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ。	外: 黒灰(5YR6/6) 内: 黒黄(10YR7/4)	粗砂粒 砂粒, 小石	良好	カマド内	1/3残
33	土師器 壺	-	(10.1)	5.0	平底。	胴部から胴部頂部までへラケズリ, へラケズリ, 胴部未調整。	外: 黒灰(10YR3/3) 内: 黒黄(5YR7/4)	砂粒	良好	カマド内	1/4残
34	土師器 壺	-	(9.3)	(5.8)	平底。	胴部外面へラケズリ。	外: 黒灰(10YR4/2) 内: 黒黄(5YR6/3)	砂粒 白色粗砂粒	良好	カマド内	1/10残
35	土師器 壺	20.5	14.7	(4.0)	丸底に近い平底。穿孔。口縁部は外反し, 胴部は縦やかに外反。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ, へラケズリ, 下平へラケズリ, 型あり。	外: 黒灰(10YR6/4) 内: 黒黄(7.5YR7/4)	砂粒	良好	塚土中	ほぼ完形
36	土師器 壺	-	(14.7)	7.4	平底。穿孔。胴部は縦やかに外反。	口縁部横ナズ, 胴部外面へラケズリ, 胴部内面へラケズリ, 胴部内面へラケズリ。	外: 黒灰(5YR6/4)	白色粗砂粒 砂粒	良好	カマド内	1/5?
37	土師器 壺	(9.0)	16.9	3.0	平底。中央が窪む。口縁部は縦やかに外反。	口縁部横ナズ, 口縁内面に指圧痕, 胴部外面へラケズリ, 内面へラケズリ, 胴部未調整。	外: 黒灰(10YR6/4) 内: 黒黄(7.5YR5/4)	砂粒, 小石	良好	塚土中	9/10残

Ⅲ おわりに

今回の鳥井戸遺跡の発掘調査においては、竪穴住居跡15軒、円形周溝遺構1基、溝1条等が確認された。最後に出土土器群等の検討から各遺構の年代を位置付けるとともに、集落の構成や変遷について若干考察し、まとめたい。

1 出土土器群の様相

今回出土した土器群は、器形や器種構成の特徴等から以下に示すとおり大きく2群に分けられる。

第1群土器 (SI08・13・15) 坏・埴類は丸底の土師器坏が主体で、SI15では大小等の法量分化もみられる。甕類は土師器の長胴甕が主体で、口縁部径が最大径となるものがほとんどである。なお須恵器はまだ客体的であるが、SI08では小型化した蓋坏の伴出がみられる。

第2群土器 (SI03～07・10・11・14) 坏・埴類は底部へラ切りの須恵器坏が主体で、数は少ないが底部糸切りで内面黒色処理のロクロ土師器が共伴する。甕類は所謂「下野型」の土師器甕が主体で、口縁部のつまみが強く胴部上位に最大径を有するものが多い。なお墨書土器も一定量みられる。

これらの年代的位置付けについては、近隣の発掘調査（西刑部地区の大関台遺跡、東谷・中島地区の砂田遺跡・権現山遺跡等）成果等を参考にすると、第1群土器が古墳時代終末期の7世紀中ごろ、第2群土器が平安時代前期の9世紀中葉に位置付けることが可能である。

2 集落の構成と変遷

以上の竪穴住居跡出土土器群の検討から、本集落跡は次のようなⅡ時期の変遷が考えられる。

第Ⅰ期 第1群土器を伴出したSI08・13・15に加え、立地や主軸方位等からSI01・12も同時期とみられる。竪穴住居跡は一辺5～6mのやや大型のものが主体で、主軸方位はほぼ南北である。集落の立地は基本的には江川に面した台地東縁辺寄りであるが、次期に比してやや台地中央部寄りに展開する様子がみられる。

第Ⅱ期 第2群土器を伴出したSI03～07・10・11・14に加え、規模や立地等からSI02・09も同時期とみられる。竪穴住居跡は一辺3～4mの小型のものが主体で、主軸方位は全体に10～20°前後東に振れている。集落の立地は、前期に比べてより台地東縁部に集中する傾向がみられる。なお最も北に位置するSI07は他に比して明らかに規模が大きく、集落の中心的な竪穴住居と考えられる。

古墳時代終末期から平安時代前期ということで、二つの時期には200年近い隔りがあるが、竪穴住居の小型化や集落の立地・構成等の変化を改めて確認することができたものと思われる。

(参考文献)

- 杉浦昭博・池田敏宏他 2001『大関台遺跡』栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
津野仁・権原浩恵・今平昌子 2007『東谷・中島地区遺跡群8 砂田遺跡』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
内山敏行 2010『東谷・中島地区遺跡群10 権現山遺跡北部・杉村遺跡』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団

写 真 图 版



調査地区表土除去状況（西から）



遺構確認状況（東から）

PL2



調査地区全景 (東から)



調査地区全景 (西から)



SI01土層断面 (西から)



SI01完掘状況 (南から)



SI01カマド (南から)



SI02土層断面 (南から)



SI02完掘状況 (南から)



SI03土層断面 (東から)



SI03完掘状況 (南から)

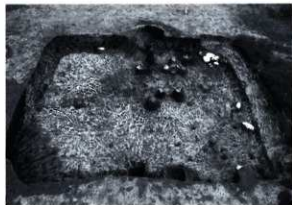


SI03カマド (南から)

PL4



SI04土層断面 (東から)



SI04遺物出土状況 (南から)



SI04北東コーナー部遺物出土状況 (東上から)



SI04完掘状況 (南から)



SI04カマド (南から)



SI05土層断面 (東から)



SI05遺物出土状況 (南から)



SI05完掘状況 (北から)



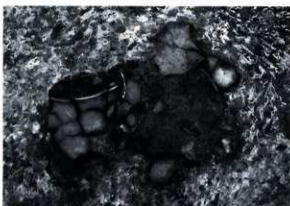
SI05カマド (南から)



SI06土層断面 (南から)



SI06遺物出土状況 (南から)



SI06土師器壺出土状況



SI06完掘状況 (北から)



SI06カマド (南から)



SI07土層断面 (南から)



SI07遺物出土状況 (南から)

PL6



SI07完掘状況 (南から)



SI07カマド (南から)



SI08土層断面 (東から)



SI08鉄器出土状況



SI08完掘状況 (南から)



SI08カマド (南から)



SI09土層断面 (南から)



SI09完掘状況 (南から)



SI10土層断面 (東から)



SI10遺物出土状況 (北から)



SI10須恵器甕出土状況



SI10完掘状況 (南から)



SI10カマド (南から)



SI11土層断面 (南から)



SI11完掘状況 (南から)



SI11カマド (西から)



SI12土層断面 (南から)



SI12完掘状況 (南から)



SI13調査風景 (南から)



SI13土層断面 (南から)



SI13土師器窠出土状況



SI13完掘状況 (南から)



SI13調査区遠景 (南から)



SI14土層断面 (東から)



SI14完掘状況 (南から)



SI15遺物出土状況 (北から)



SI15完掘状況 (北から)



SI15調査区遠景 (南から)



SD01土層断面 (南から)



SD01完掘状況 (南から)

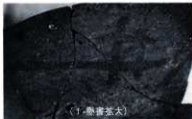


SD01完掘状況 (北から)



SX01完掘状況 (北から)

PL10



S103出土遺物



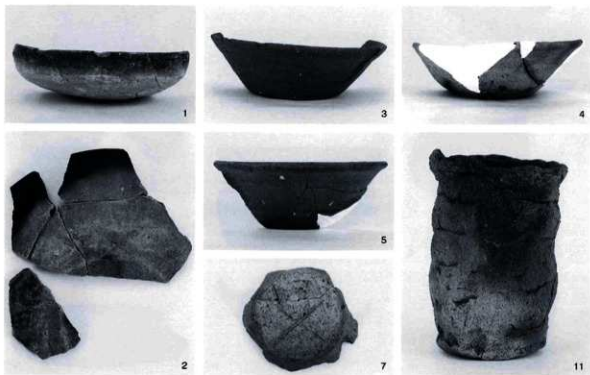
S104出土遺物



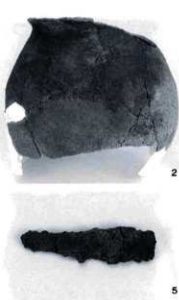
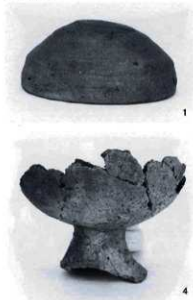
S105出土遺物



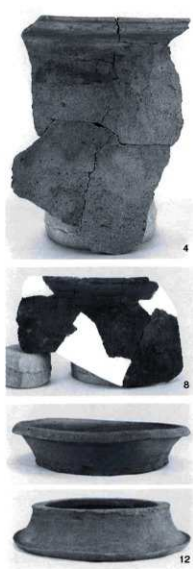
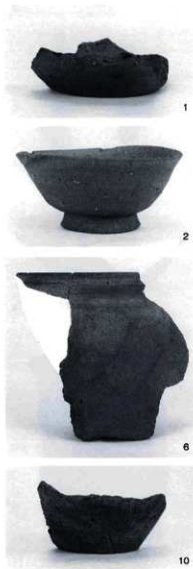
SI06出土遺物



SI07出土遺物



S108出土遺物



S110出土遺物



SI11出土遺物

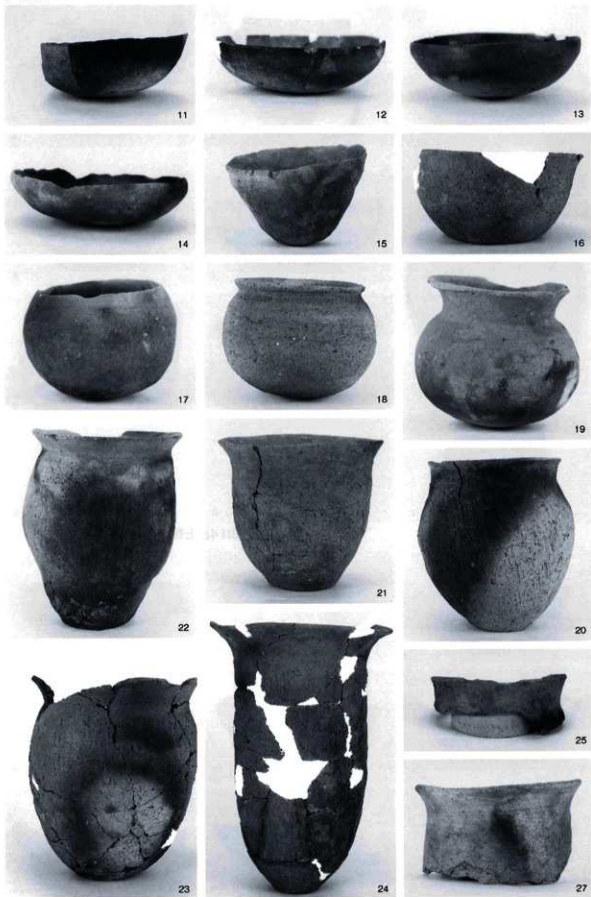


SI13出土遺物

SI14出土遺物



SI15出土遺物 (1)



S115出土遺物 (2)



S115出土遺物 (3)

報告書抄録

ふりがな	とりいどいせき
書名	鳥井戸遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第110集
編著者名	梁木 誠 田親麻友子 清地良太
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 Tm028-632-2764
発行年月日	西暦 2021年(令和3年)9月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とりいどいせき 鳥井戸遺跡	うつのみやし 宇都宮市 かほくまのやま 上籠谷町	09201	3377	36度 30分 58秒	139度 58分 20秒	20080804 ～ 20150323	6,220	市道建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鳥井戸遺跡	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡 15軒他	土師器、須恵器、 鉄器等	近隣では数少ない古代集落の調査例。

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書 第110集

鳥 井 戸 遺 跡

発 行 宇都宮市教育委員会
編 集 宇都宮市教育委員会
宇都宮市旭1丁目1番5号
TEL 028-632-2764
発行日 令和3年9月30日発行
印 刷 有限会社 印刷親友社
宇都宮市瑞穂3-9-11
TEL 028-656-3655
